

米をめぐる関係資料

令和元年 7 月

農林水産省

目次

【① 我が国における米の状況】	3	○ 平成30年産の水田における都道府県別の作付状況	31
○ 我が国におけるコメ	4	○ 令和元年産米等の作付意向について	33
○ 米の全体需給の動向(昭和35年～)	5	○ 令和元年産米等の当面の推進について	36
○ 米の需要量及び販売価格の動向	6	○ 福島県における県産米の安全・安心確保への取組	37
○ 米の用途別・年産別面積の推移	7	○ 令和元年産米の作付制限等の対象地域(平成30年産との比較)	38
○ 米の流通の状況(平成16～29年産米)	8	○ 政府備蓄米の運営について	39
○ 米の流通経路別流通量の状況	9	○ 令和元年産に向けた備蓄米の推進について	40
○ 家庭における1世帯当たりの米、パン、めん類の購入量の推移	10	○ 令和元年産備蓄米の政府買入数量	41
○ 家庭における1世帯当たりの支出金額の推移	11	○ 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討	42
○ 米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合	12		
○ 米の消費動向	13	○ 【② 需要に応じた生産の推進に向けた施策等】	43
○ 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)	16	○ 農林水産業・地域の活力創造プラン	44
○ 茶わん1杯のお米の値段	17	○ 食料・農業・農村基本計画本文(米関係抜粋)	45
○ 相対取引価格の推移(平成21年産～30年産)	18	○ 平成37年度における食料消費の見通し及び生産努力目標	46
○ 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成30年産)	19	○ 主食用米の需要に応じた生産・販売	47
○ 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成29年産)	20	○ 水田活用の直接支払交付金	48
○ 平成30年産米の相対取引価格	21	○ 令和元年産における需要に応じた生産の推進策	49
○ 小売価格の推移(POSデータ)	22	○ 水田フル活用ビジョンについて(概要)	50
○ 販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数	23	○ 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)	51
○ 米の作付規模別60kg当たり生産費	24	○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業	52
○ 水田の利用状況(平成30年度)	25	○ 主食用米の需給安定の考え方について	53
○ 水田の利用状況の推移	26	○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業におけるこれまでの主な取組事例	54
○ 全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～29年産)	27	○ 農業再生協議会について	55
○ 全国農業地域・都道府県別作況指数	28	○ 需要に応じた生産の推進に係る全国会議等(農林水産省主催)	56
○ 平成30年産水稻の作付面積及び収穫量	29	○ 需要に応じた販売について	57
○ 平成30年産の水田における作付状況	30		

○ 中食・外食向け販売量の状況について	58
○ 中食・外食向けの需要に応じた生産・販売事例	59
○ 中食・外食向け米の多収品種	60
○ 産地と中食・外食事業者等の米マッチングフェアについて	61
○ 米消費拡大の取組	62
○ 生産コスト低減に向けた具体的な取組	65
○ スマート一貫体系(イメージ)【大規模水田作】	66
○ スマート農業技術の開発・実証プロジェクト	67
○ スマート農業加速化実証プロジェクト	68
○ 農業競争力強化プロジェクトへの対応(農産物規格・検査の見直し)	69
○ 現行の農産物規格・検査の概要	70
○ 米流通の見直しについて(全農の売り方)	71
【③ 新規需要米の取組状況】	72
○ 飼料用米の取組状況	73
○ 多収品種について	74
○ 平成30年度産飼料用米の出荷方式、品種別面積	75
○ 飼料用米の供給状況	76
○ 配合飼料メーカーへの飼料用米の供給について	77
○ 飼料用米の推進について	78
○ 飼料用米の流通経費について	79
○ 飼料用米の利用拡大のための機械・施設整備等に対する支援	80
○ 飼料用米を活用した畜産物の高付加価値化に向けた取組	81
○ 飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例	82
○ 「飼料用米多収日本一コンテスト」の開催	84
○ 米粉用米の状況	85
○ 米粉によるグルテンフリー食品市場の取り込みに向けて	86
○ 酒造好適米の需要に応じた生産について	87
○ 酒造好適米の需要量調査結果の概要	88

○ 【④ 米の輸出・輸入】	89
○ 商業用の米の輸出数量及び輸出金額の推移	90
○ コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向	91
○ 一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会の概要	92
○ 米・米関連食品の輸出拡大に向けた取組	93
○ 米の輸出力強化に向けた対応方向	94
○ コメ海外市場拡大戦略プロジェクト構想	95
○ コメ海外市場拡大戦略プロジェクトの参加状況	96
○ 中国向けに日本産精米を輸出できる精米工場及びくん蒸倉庫の追加	97
○ 経営規模・生産コスト等の内外比較	98
○ 日米の水稻栽培法の主な違い	99
○ コメの内外価格差	100
○ コメの輸入制度	101
○ MA米の運用に関する政府の方針・見解	102
○ 国家貿易によるコメの輸入の仕組み	103
○ MA米の輸入状況	104
○ 平成30年度のSBS米の輸入入札状況	105
○ MA米の販売状況	106
○ MA米の運用に伴う財政負担	107
○ MA米をめぐる国際関係	108
○ TPP11におけるコメの豪州枠の運用	109
○ 総合的なTPP等関連政策大綱[米関係抜粋]	110
○ 総合的なTPP等関連政策大綱による政府備蓄米の運営の見直し	111
○ 日EU・EPA交渉結果(米)	112
○ 世界の米需給の現状(主要生産国、輸出国等)	113
○ 米輸出国の動向	114

① 我が国における米の状況

我が国におけるコメ

- コメの国内生産（稲作と水田）は、我が国の食料安全保障、食生活、農業・農村、国土・環境などに不可欠のもの。日本人の歴史・文化とも密接な関係。

○ 我が国の食料自給率（平成29年度）

	カロリーベース	生産額ベース
平成28年度	38% (37.65%)	67% (67.17%)
	↓	↓
平成29年度	38% (37.78%)	65% (64.99%)

（参考）品目別供給熱量自給率

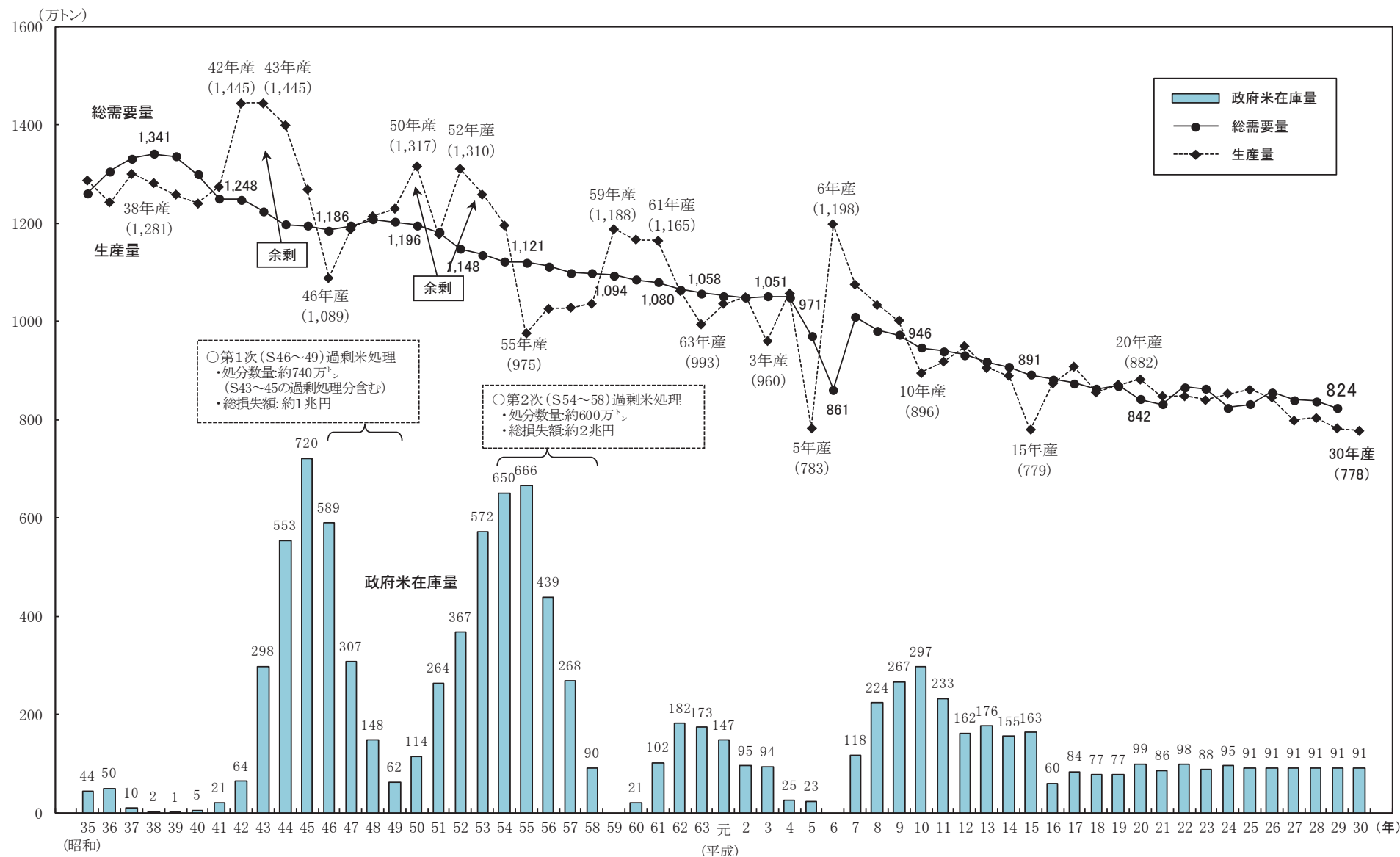
米	小麦	大豆	野菜	果実
97%	14%	28%	75%	34%
畜産物	砂糖類	油脂類	魚介類	その他
16%	32%	3%	59%	23%

- ・農産物市場の開放と食料の輸入依存が進む中で、コメは100%近い自給率を維持。
- ・コメは、先進国の中で最低レベルである我が国の食料自給率を支える、食料安全保障の要。

○ 我が国におけるコメの重要性

- ・ 国民の主食であり、食文化の基礎
〔国産米は品質も高く、日本人の嗜好に最適。ご飯、おむすび、寿司などの他、もち、和菓子（例. 団子、白玉）、米菓（例. せんべい、あられ）、日本酒などの原材料。祝事や年中行事には赤飯、鏡餅、柏餅など。〕
- ・ 農業生産・農村経済の中核
〔農業生産額の2割がコメ（H28）。全耕作地の半分以上が田（H29）。全農業経営体の7割が稲作（H27）。〕
- ・ 稲作や水田の有する多面的機能
〔国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料などの供給の機能以外の多面にわたる機能のこと（食料・農業・農村基本法第3条）。〕
- ・ 日本人の歴史や文化と密接な関係
〔稲作の始まりにより社会（ムラ）・国家（クニ）が成立。江戸時代の各藩はコメの生産量で表され（石高制）、税もコメ（年貢）。豊作への感謝と祈りが、祭りの起源。稲作での共同作業は、日本の組織文化の基礎。〕

米の全体需給の動向(昭和35年～)

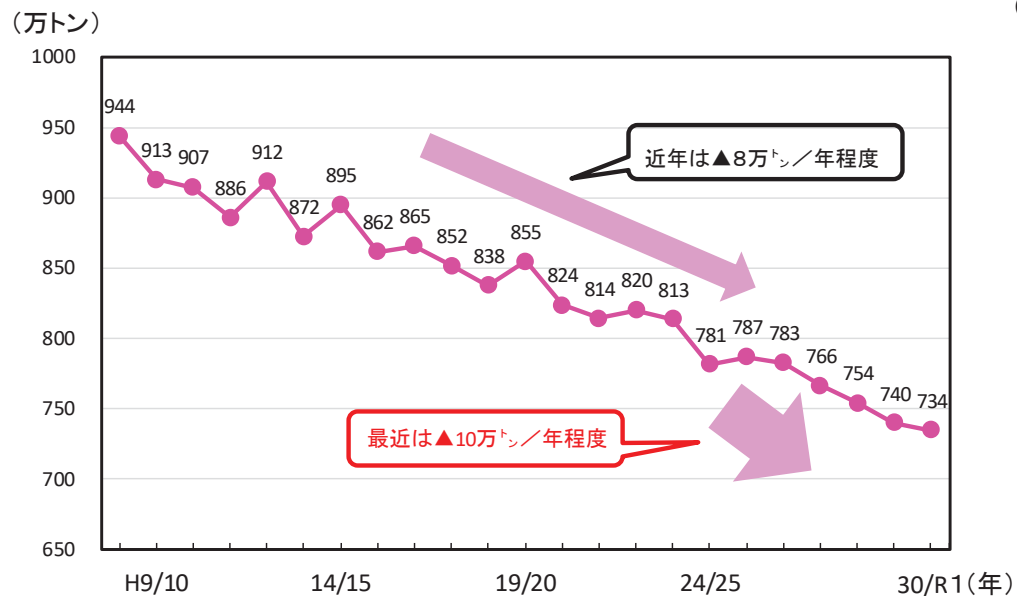


1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
4. 総需要量は、「食料需給表」(4月～3月)における国内消費仕向量(陸稲を含み、主食用(米菓・米穀粉を含む)のほか、飼料用、加工用等の数量)である。
ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
5. 生産量は、「作物統計」における水稻と陸稲の収穫量の合計である。

米の需要量及び販売価格の動向

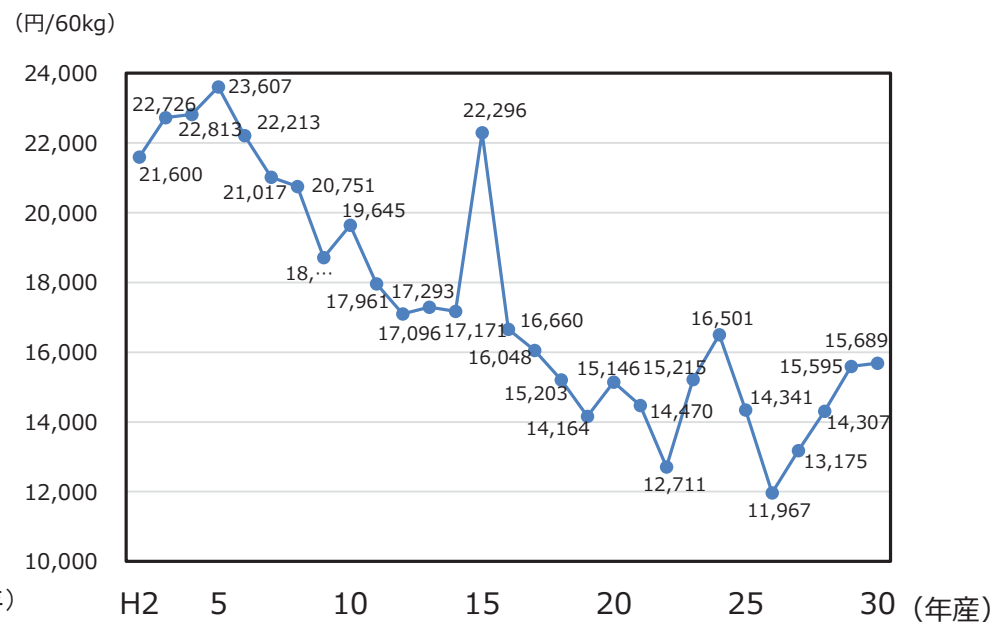
- 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近では人口減等を背景に年10万トン程度と減少幅が拡大。
- 米の販売価格は長期的に低下傾向で推移。

【主食用米の需要量の推移】



資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

【米の販売価格の推移】



資料：(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注1：2～17年産までは(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果を元に作成。
 注2：18年産以降は出回り～翌年10月(30年産は元年6月まで)の相対取引価格の平均値。
 注3：センター価格は、銘柄ごとの落札数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

米の用途別・年産別面積の推移

(単位: 万ha)

用途 年産	主食用米		備蓄米	加工用米	新規 需要米	米粉用	飼料用	WCS用稲 〔稲発酵粗 飼料用稲〕	新市場 開拓用 (輸出用米等)	酒造用	その他
		生産量 (万トン)									
H20	159.6	866	H22年産 までは、 主食用米 として生産	2.7	1.2	0.0	0.1	0.9	0.0	－	0.2
21	159.2	831		2.6	1.8	0.2	0.4	1.0	0.0	－	0.1
22	158.0	824		3.9	3.7	0.5	1.5	1.6	0.0	－	0.1
23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	0.7	3.4	2.3	0.0	－	0.1
24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	0.6	3.5	2.6	0.0	－	0.1
25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	0.4	2.2	2.7	0.1	－	0.1
26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	0.3	3.4	3.1	0.1	0.1	0.1
27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	0.4	8.0	3.8	0.2	0.1	0.0
28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	0.3	9.1	4.1	0.1	0.1	0.0
29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	0.5	9.2	4.3	0.1	0.1	0.0
30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	0.5	8.0	4.3	0.4	－	0.0

注1: 主食用米については、統計部公表値。

注2: 備蓄米については、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3: 加工用米及び新規需要米については、取組計画認定面積。

注4: 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。

注5: ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある。

米の流通の状況(平成16～29年産米)

【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
H 16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%

【出荷・販売段階】

(単位:万トン)

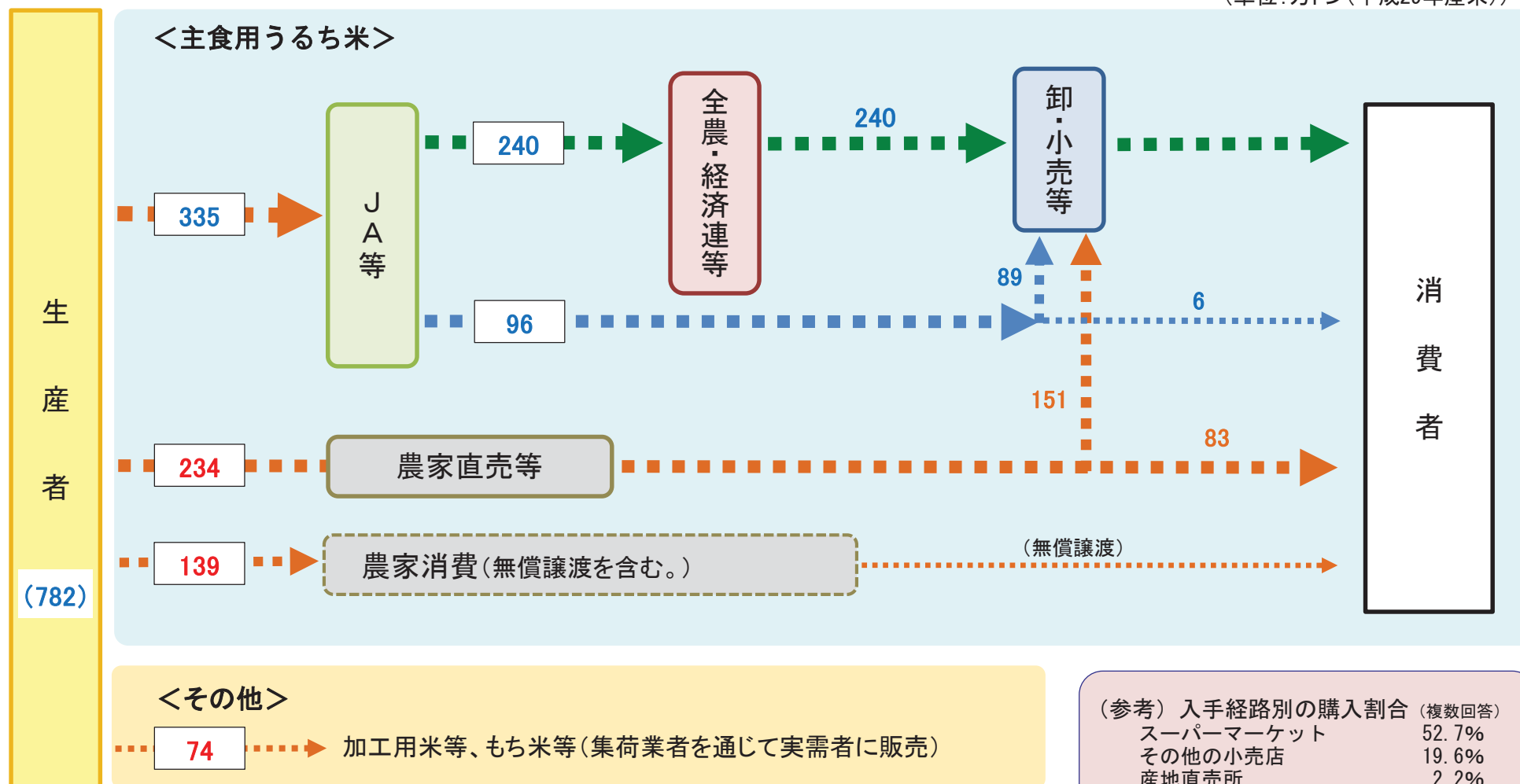
年産		出荷・販売		農協										全集連系業者						生産者 直接販売等					
				販売委託						直販				販売委託								直販			
H 16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%									
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%									
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%									
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%									
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%									
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%									
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%									
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%									
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%									
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%									
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%									
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%									
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%									
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%									

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

- 注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。
 2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
 3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

米の流通経路別流通量の状況

(単位: 万トン(平成29年産米))



資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1：JA等には、全集連系を含む（JA等への出荷量335万トンのうち20万トンが全集連系）。

注2：「卸・小売等」には、中食・外食事業者及び加工事業者等を含む。

注3：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

(参考) 入手経路別の購入割合 (複数回答)

スーパーマーケット	52.7%
その他の小売店	19.6%
産地直売所	2.2%
インターネット	9.8%
生産者から直接購入	6.0%
無償譲渡	14.8%

※ 米穀安定供給確保支援機構調べをもとに農林水産省で算出(平成30年4月から平成31年3月の年平均)

[illegible]

家庭における1世帯当たりの支出金額の推移

(円、%)

	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
	前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比	
平成 24年	879,402	+0.8	28,731	+4.8	28,282	▲0.1	17,563	▲3.7	1,255	▲2.3	3,358	▲3.2	77,779	+1.3	104,615	+2.6	157,668	+2.0	4,315	▲4.1
25年	895,860	+1.9	28,093	▲2.2	27,974	▲1.1	17,170	▲2.2	1,193	▲4.9	3,313	▲1.3	78,948	+1.5	105,033	+0.4	165,246	+4.8	4,170	▲3.4
26年	913,261	+1.9	25,108	▲10.6	29,210	+4.4	17,295	+0.7	1,206	+1.1	3,430	+3.5	80,127	+1.5	108,066	+2.9	166,737	+0.9	3,712	▲11.0
27年	937,712	+2.7	22,981	▲8.5	30,507	+4.4	17,747	+2.6	1,234	+2.3	3,745	+9.2	83,027	+3.6	112,625	+4.2	169,626	+1.7	3,250	▲12.4
28年	947,618	+1.1	23,522	+2.4	30,294	▲0.7	17,606	▲0.8	1,202	▲2.6	4,061	+8.4	83,472	+0.5	118,296	+5.0	168,067	▲0.9	3,583	+10.2
29年	946,438	▲0.1	23,681	+0.7	29,957	▲1.1	17,300	▲1.7	1,146	▲4.7	4,077	+0.4	83,087	▲0.5	120,000	+1.4	168,646	+0.3	3,748	+4.6
30年	952,170	+0.6	24,314	+2.7	30,554	+2.0	17,368	+0.4	1,166	+1.7	4,282	+5.0	83,916	+1.0	122,930	+2.4	171,571	+1.7	4,099	+9.4
31年1月	75,783	▲1.4	1,490	▲2.3	2,534	+2.7	1,297	▲2.6	93	+5.7	375	+1.9	6,873	+1.8	9,978	+0.1	14,757	▲1.9	387	+6.0
2月	71,507	▲0.3	1,671	▲5.4	2,551	+6.9	1,264	▲0.2	98	+3.2	373	+4.5	6,975	+2.9	9,314	▲0.1	12,475	+4.9	333	+12.1
3月	80,302	+1.3	1,833	+0.9	2,898	+5.7	1,430	+6.2	112	+7.7	438	+16.8	8,090	+5.8	10,188	+2.0	15,490	+3.3	446	+30.8
4月	77,463	+2.6	1,877	▲0.8	2,861	+9.1	1,392	+1.1	106	▲0.9	391	+15.3	7,010	+6.4	10,107	+6.6	14,562	+6.3	353	+23.0
令和元年5月	81,049	+3.7	1,785	▲5.7	2,773	+6.3	1,493	+3.0	97	+1.0	352	+8.0	7,269	+7.2	10,319	+5.8	15,937	+9.7	350	+12.9

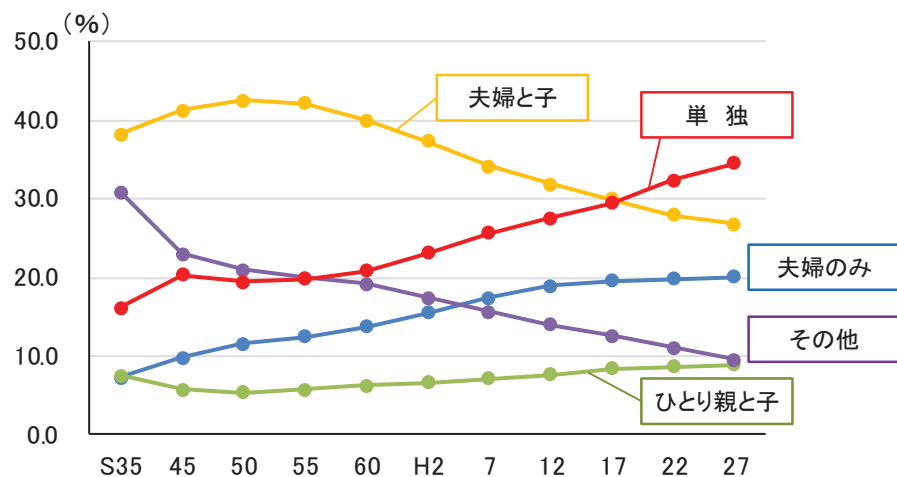
資料:総務省「家計調査」

(注1) 二人以上の世帯の数値である。(注2)平成24年から平成30年については年間の支出金額・対前年比、平成31年1月以降は月間の支出金額・対前年同月比である。(注3)パンは、食パン及び他のパン(菓子パン等)である。

米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合

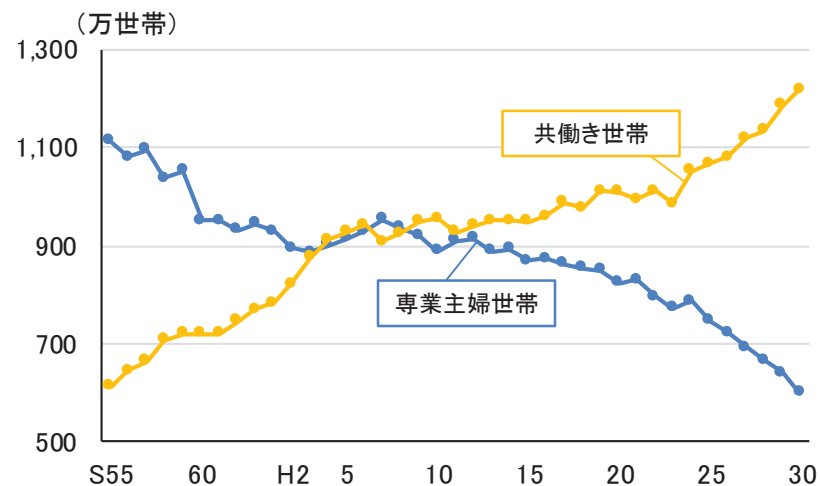
- 世帯構成の変化（単身世帯の増加）、女性の社会進出（共働き世帯の増加）等の社会構造の変化により、食の簡便化志向が強まっており、米を家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、中食・外食の占める割合は年々増加傾向にある。

【家族類型別にみた一般世帯の構成割合の推移】



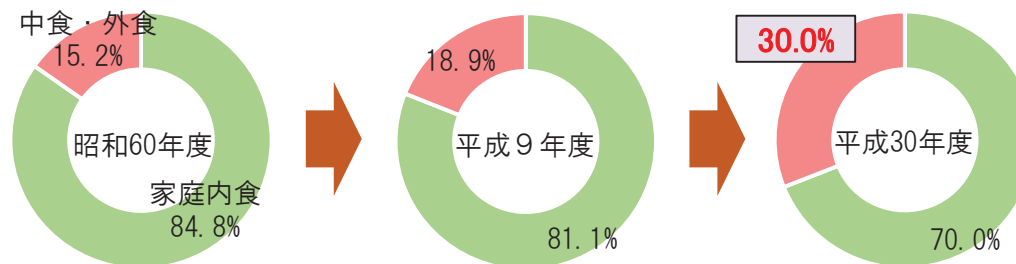
資料：国立社会保障・人口問題研究所「家族類型別世帯数および割合」

【専業主婦世帯数と共働き世帯数の推移】



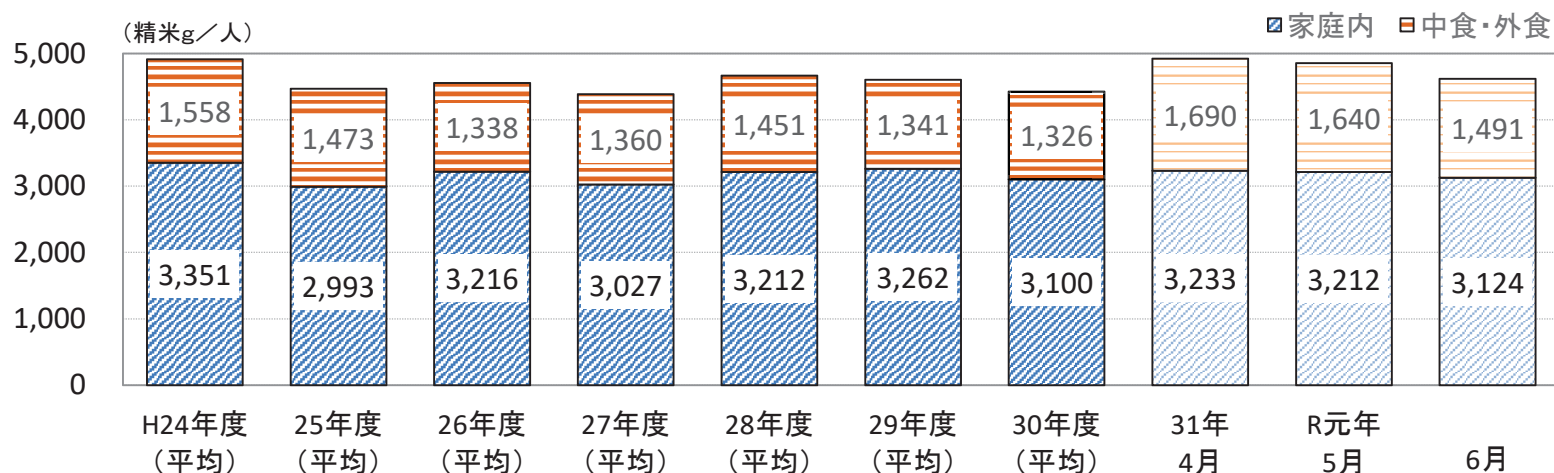
資料：独立行政法人労働政策研究・研修機構「専業主婦世帯と共働き世帯」

【米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合（全国）】



資料：農林水産省「米の1人1ヶ月当たり消費量」及び米穀機構「米の消費動向調査」

米の消費動向 ①(1人1ヶ月当たり精米消費量の推移)(米穀機構による調査)



(精米g/人、%)

	精米消費量					内訳比率					前年同月比				
	合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食
24年度	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲ 1.3	1.6	▲ 7.6	▲ 8.8	▲ 5.8
30年度	4,426	3,100	1,326	782	544	100.0	70.0	30.0	17.7	12.3	▲ 3.8	▲ 5.0	▲ 1.1	0.6	▲ 3.5
31年 4月	4,923	3,233	1,690	979	710	100.0	65.7	34.3	19.9	14.4	1.9	▲ 4.4	16.9	13.4	21.8
元年 5月	4,851	3,212	1,640	968	672	100.0	66.2	33.8	20.0	13.9	5.6	0.6	17.1	15.0	20.4
6月	4,615	3,124	1,491	866	624	100.0	67.7	32.3	18.8	13.5	1.1	▲ 2.6	9.6	5.4	16.0

出典： 米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注： 1 平成24～30年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

米の消費動向 ②(精米購入時の動向)

【入手経路（複数回答）】

単位：％

	平成 25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平成31年 4月	令和元年 5月	6月
デパート	0.7	1.2	1.8	1.5	1.4	1.4	1.2	1.5	0.9
スーパーマーケット	47.4	48.7	48.1	49.7	49.4	52.7	50.2	50.8	50.4
ドラッグストア	3.8	4.1	3.7	3.7	4.3	4.8	6.0	6.8	5.9
ディスカウントストア	2.8	2.4	2.5	2.8	3.1	2.8	3.6	2.5	3.8
コンビニエンスストア	0.3	0.2	0.2	0.5	0.3	0.2	0.0	0.2	0.3
生協(店舗・共同購入含む)	7.1	8.2	7.8	8.1	6.9	6.5	6.5	6.1	6.5
農協(店舗・共同購入含む)	1.6	1.5	1.0	1.5	1.6	1.2	1.8	1.5	1.3
米穀専門店	3.8	3.5	3.7	2.7	2.8	2.7	3.0	2.0	2.0
産地直売所	1.8	2.0	1.5	1.8	2.0	2.2	1.7	1.3	1.1
生産者から直接購入	6.8	6.7	5.2	6.2	7.1	6.0	6.2	6.8	7.2
インターネットショップ	10.0	8.7	9.7	9.6	10.0	9.8	6.1	8.3	7.4
家族・知人などから無償で入手	20.8	19.5	20.3	17.2	16.2	14.8	15.4	16.2	16.6
その他	1.6	2.6	2.6	3.2	2.5	2.3	4.8	2.7	3.1

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

（注）平成25～30年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

米の消費動向 ③(精米購入経路別の購入単価、家庭内の月末在庫数量)

【精米購入経路別の購入単価（複数回答）】

(円/kg)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協 (店舗・共同購入含む)	農協 (店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	有効調査世帯数
平成31年4月	632	396	355	313	※330	391	445	454	424	360	471	2,087
令和元年5月	639	383	335	387	※802	414	441	495	430	372	466	1,929
6月	※742	407	363	321	※523	386	456	535	434	370	474	1,829

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

(注1) デパート、スーパーマーケット、生協は、実店舗の購入単価であり、インターネットを利用した購入は含まない。

(注2) 購入単価は消費税を除く本体価格である。

(注3) 表中の※付きの単価は、「精米購入・入手経路」の割合が1%に満たないため参考値とする。

【家庭内の月末在庫数量】

(kg/世帯、%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
26年度	月末在庫数量	6.8	6.8	6.5	6.3	6.5	6.8	7.3	7.5	7.8	7.1	6.8	6.6	6.9	3.0
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	－
27年度	月末在庫数量	6.0	6.2	6.2	6.3	6.4	6.6	6.9	7.1	7.3	7.1	6.8	6.6	6.6	▲4.3
	平均世帯人員	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.41	2.41	2.40	2.41	2.41	2.41	2.40	－
28年度	月末在庫数量	6.5	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	6.7	7.0	7.7	7.5	6.7	6.6	6.7	1.5
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	－
29年度	月末在庫数量	6.1	6.2	5.9	6.0	6.0	6.1	6.7	6.8	7.0	6.9	6.4	6.4	6.4	▲4.5
	平均世帯人員	2.33	2.32	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	－
30年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.0	5.8	6.1	6.5	6.6	6.9	7.2	6.6	6.4	6.4	6.4	0.0
	平均世帯人員	2.32	2.32	2.32	2.33	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	－
元年度	月末在庫数量	6.0	6.2	5.9										6.0	▲6.3
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33										2.33	－

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

(注1) 地域ごとの世帯人員構成比が26～28年度はH22国勢調査、29～元年度はH27国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で集計した。

(注2) 平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

[調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。四半期ごとに継続的に調査。

○ アンケート回答数 60組会員

○ 調査期間 平成31年4月22日(月)～令和元年5月13日(月)

1. 現在(平成31年4月)の米販売量(前年同月との比較)

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100.0%	15.0%	25.0%	25.0%	18.3%	16.7%
<仕向先別>						
(小売店向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100.0%	16.7%	19.0%	35.7%	16.7%	11.9%
中小スーパー	100.0%	7.4%	20.4%	37.0%	20.4%	14.8%
米穀専門店	100.0%	7.1%	1.8%	30.4%	37.5%	23.2%
その他	100.0%	19.6%	15.2%	41.3%	4.3%	19.6%
(外食産業向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
外食向け	100.0%	7.8%	21.6%	51.0%	13.7%	5.9%
中食向け	100.0%	7.1%	23.2%	51.8%	8.9%	8.9%
給食向け	100.0%	7.4%	14.8%	64.8%	5.6%	7.4%

2. 米販売の動き:過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

(1)過去3ヶ月前(平成31年1月)と比較した平成31年4月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	45.0%	28.3%	16.7%	10.0%	0.0%	77.1

(参考)前回調査 平成30年10月と比較した平成31年1月の動き

100.0%	0.0%	7.0%	24.6%	26.3%	42.1%	24.1
--------	------	------	-------	-------	-------	------

(2)平成31年4月から3ヶ月後(元年7月頃)の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	0.0%	21.7%	46.7%	30.0%	1.7%	47.1

(参考)前回調査 平成31年1月から3ヶ月後(平成31年4月頃)の見通し

100.0%	3.5%	36.8%	29.8%	28.1%	1.8%	53.1
--------	------	-------	-------	-------	------	------

*1. 赤字は、最頻値及びDI値。

2. DI(diffusion index)の算出方法:内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0～1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

(算出例)	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
評価点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結果(構成比) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値 C=A×B	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4→米販売の動きはほんの少し低迷傾向				

(参考) 茶わん1杯のお米の値段

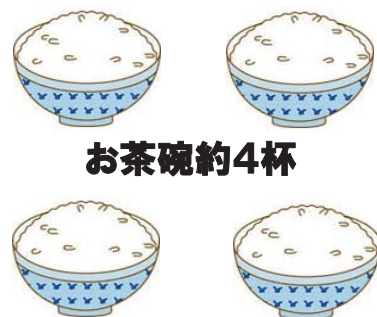
○ ご飯は経済的な食べ物

- 茶わん1杯のごはんを炊く前のお米(精米)の重さは **65g** くらいです。5kgの精米は約77杯になりますので、2,006円(小売価格の平均)のお米を買ってごはんを炊いた場合、1杯当たりのお米の値段は **約26円** となります。※

※ 茶わん1杯のごはんは、精米65g使用、5kg当たり2,006円(POSデータによるコメの平均小売価格(令和元年5月))で算出。



=

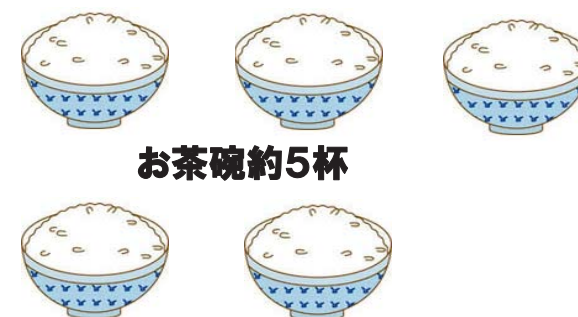


お茶碗約4杯

ミネラルウォーター(2リットル)93円



=



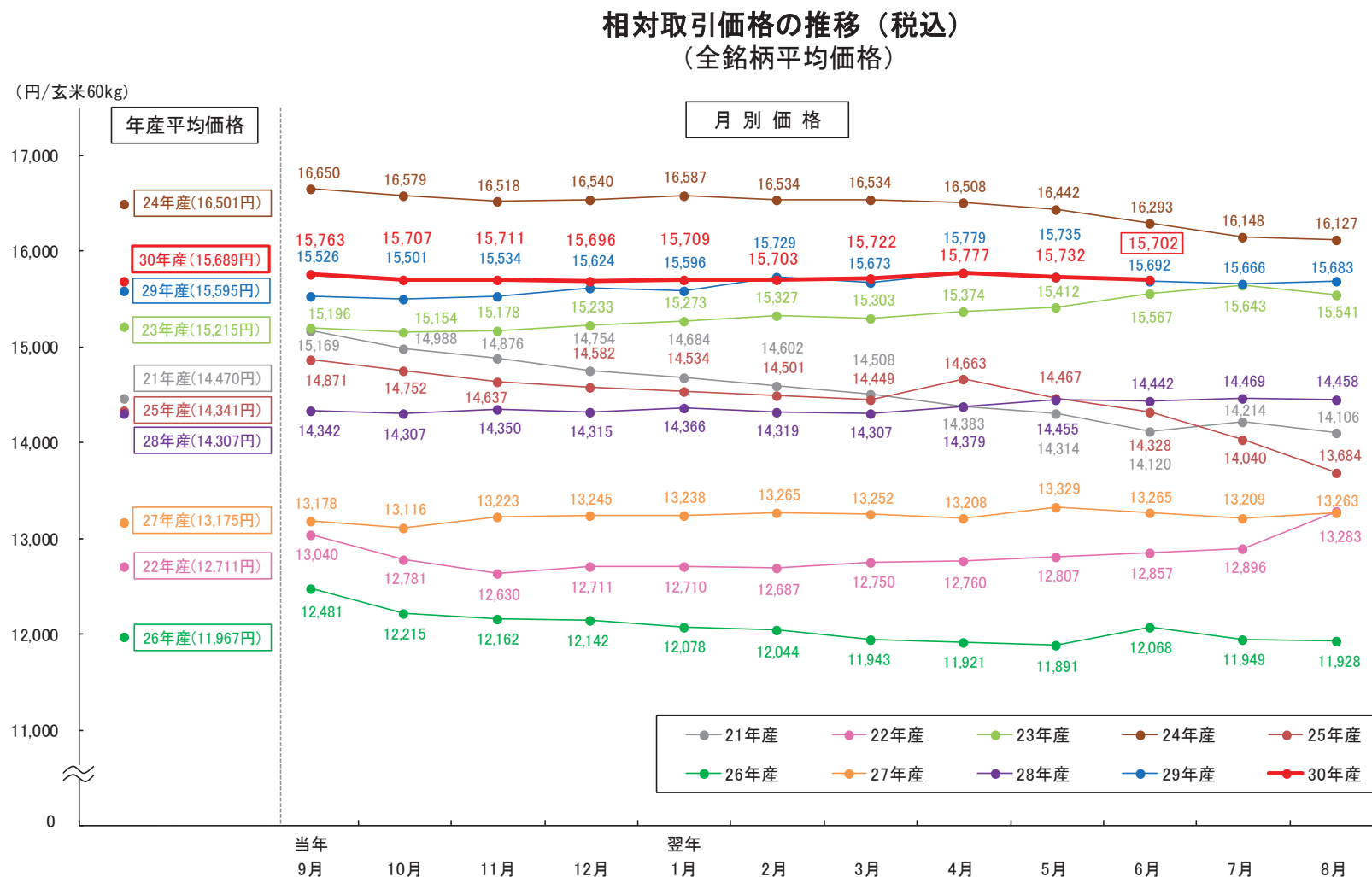
お茶碗約5杯

缶コーヒー 130円

出展：ミネラルウォーターは、総務省「小売物価統計調査(主要品目の東京都区部小売価格)30年度平均価格」
缶コーヒーは、街中の自動販売機等で販売されている一般的な価格

相対取引価格の推移(平成21年産～30年産)

○ 平成30年産米の元年6月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,702円/60kgとなり、年産平均価格(出回り～元年6月まで)は前年産+94円/60kgとなったところ。

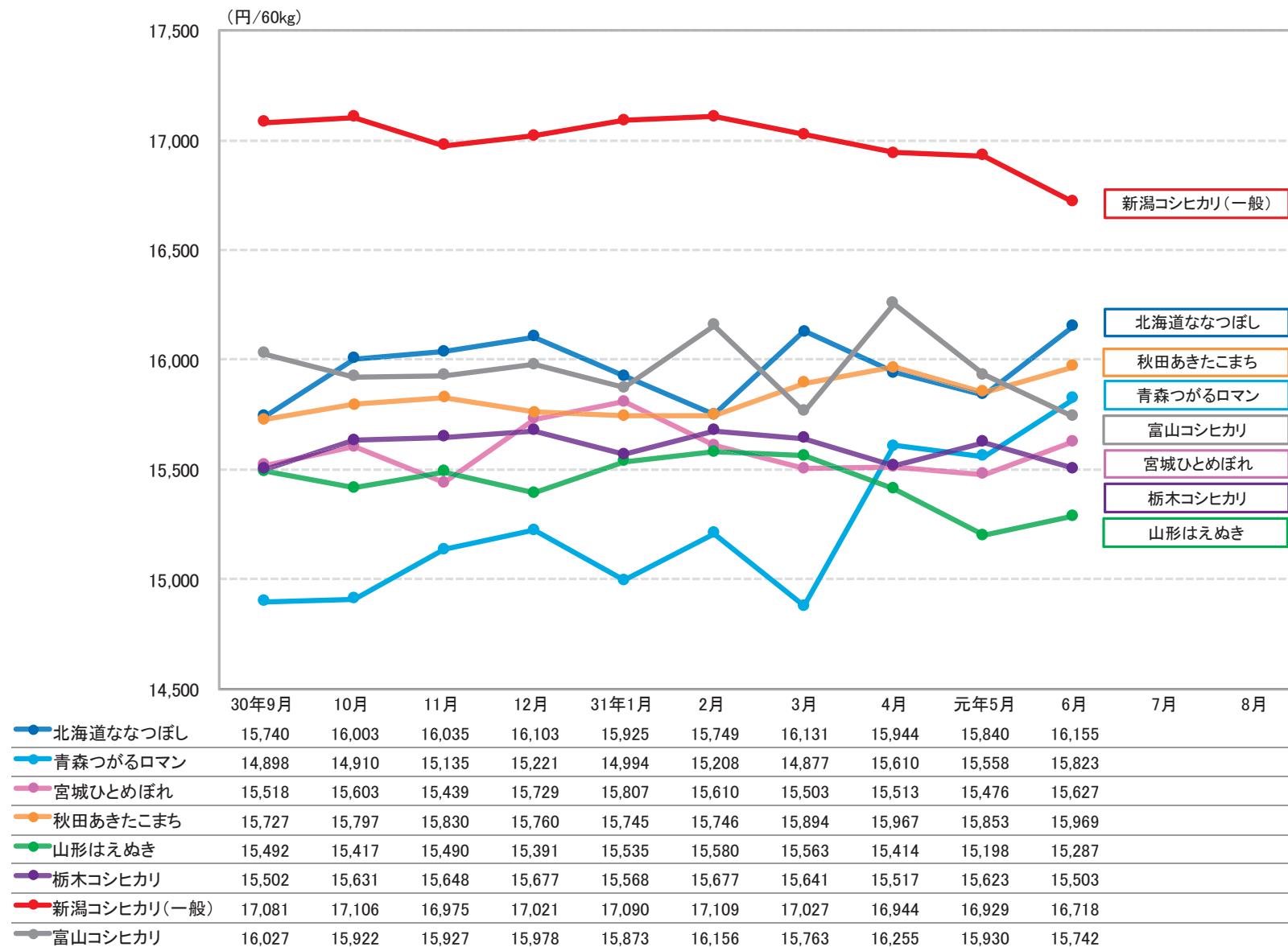


資料：農林水産省調べ

注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%)を含む1等米の価格である。

2：グラフの左側は各年産の通年平均価格(当該年産の出回りから翌年10月(30年産は令和元年6月)まで)、右側は月ごとの価格の推移。

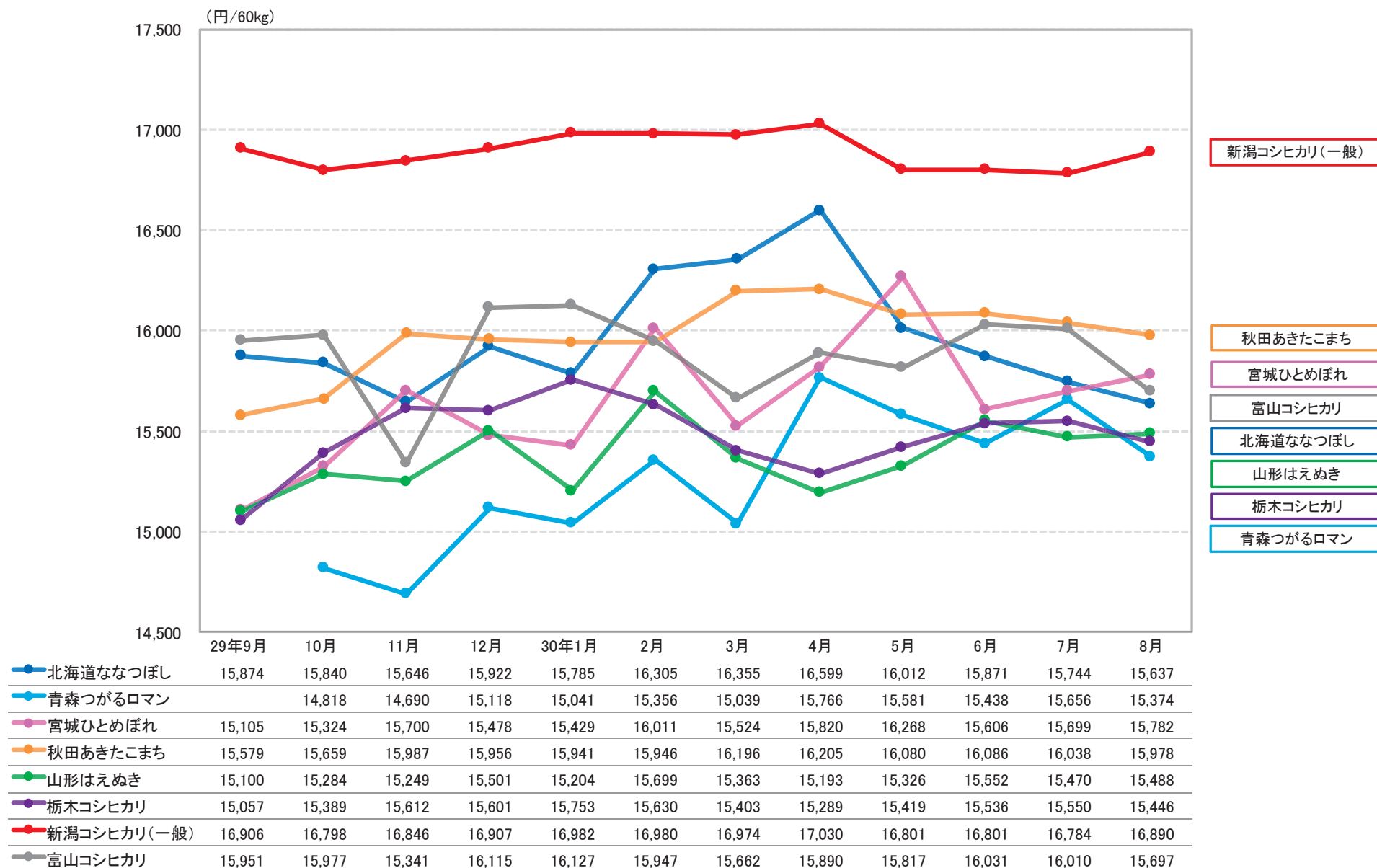
産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成30年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成29年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

平成30年産米の相対取引価格（令和元年6月までの年産平均価格）

産地品種銘柄		30年産 出回り～ 元年6月 ①	29年産 出回り～ 30年10月 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	16,003	15,882	+ 121
北海道	ゆめひりか	16,253	17,226	▲ 973
北海道	きらら397	15,549	15,681	▲ 132
青森	まっしぐら	14,760	14,923	▲ 163
青森	つがるロマン	15,044	15,112	▲ 68
岩手	ひとめぼれ	15,331	15,172	+ 159
岩手	あきたこまち	15,250	15,043	+ 207
岩手	いわてっこ	14,781	14,679	+ 102
宮城	ひとめぼれ	15,531	15,496	+ 35
宮城	つや姫	15,933	15,811	+ 122
宮城	ササニシキ	15,792	15,724	+ 68
秋田	あきたこまち	15,844	15,995	▲ 151
秋田	めんこいな	14,769	14,990	▲ 221
秋田	ひとめぼれ	15,441	15,695	▲ 254
山形	はえぬき	15,466	15,360	+ 106
山形	つや姫	18,379	18,175	+ 204
山形	ひとめぼれ	16,019	15,857	+ 162
福島	コシヒカリ（中通り）	15,439	15,412	+ 27
福島	コシヒカリ（会津）	15,528	15,321	+ 207
福島	コシヒカリ（浜通り）	15,082	15,036	+ 46
福島	ひとめぼれ	14,957	14,955	+ 2
福島	天のつば	14,595	14,691	▲ 96
茨城	コシヒカリ	15,551	15,287	+ 264
茨城	あきたこまち	15,101	15,470	▲ 369
栃木	コシヒカリ	15,612	15,460	+ 152
栃木	あざひの夢	14,816	15,012	▲ 196
栃木	なすひかり	14,989	14,954	+ 35
群馬	あざひの夢	15,189	15,312	▲ 123
群馬	ゆめまつり	14,981	15,273	▲ 292
埼玉	彩のかがやき	15,157	14,919	+ 238
埼玉	コシヒカリ	15,477	15,024	+ 453
埼玉	彩のきずな	15,170	14,904	+ 266
千葉	コシヒカリ	15,531	15,034	+ 497
千葉	ふさこがね	14,641	14,542	+ 99
千葉	ふさおとめ	14,768	14,629	+ 139
山梨	コシヒカリ	18,050	17,552	+ 498
長野	コシヒカリ	16,081	15,580	+ 501
長野	あきたこまち	15,256	14,801	+ 455

産地品種銘柄		30年産 出回り～ 元年6月 ①	29年産 出回り～ 30年10月 ②	価格差 ①－②
静岡	コシヒカリ	15,971	15,548	+ 423
静岡	きぬむすめ	14,951	14,415	+ 536
静岡	あいちのかおり	14,936	14,625	+ 311
新潟	コシヒカリ（一般）	17,041	16,924	+ 117
新潟	コシヒカリ（魚沼）	21,062	20,782	+ 280
新潟	コシヒカリ（佐渡）	17,509	17,389	+ 120
新潟	コシヒカリ（岩船）	17,450	17,351	+ 99
新潟	こしいぶき	15,097	14,968	+ 129
富山	コシヒカリ	15,965	15,882	+ 83
富山	てんたかく	14,757	14,542	+ 215
石川	コシヒカリ	15,886	15,608	+ 278
石川	ゆめみづほ	14,651	14,454	+ 197
福井	コシヒカリ	16,123	15,964	+ 159
福井	ハナエチゼン	14,969	14,726	+ 243
岐阜	ハツシモ	15,327	14,989	+ 338
岐阜	コシヒカリ	15,945	15,615	+ 330
岐阜	あきたこまち	14,886	14,286	+ 600
愛知	あいちのかおり	14,560	14,522	+ 38
愛知	コシヒカリ	15,347	14,990	+ 357
愛知	大地の風	14,684	14,425	+ 259
三重	コシヒカリ（一般）	15,394	14,945	+ 449
三重	コシヒカリ（伊賀）	15,862	15,412	+ 450
三重	キヌヒカリ	14,810	14,265	+ 545
滋賀	コシヒカリ	15,649	15,096	+ 553
滋賀	キヌヒカリ	14,763	14,298	+ 465
滋賀	日本晴	14,639	14,183	+ 456
京都	コシヒカリ	15,725	15,535	+ 190
京都	キヌヒカリ	14,936	14,715	+ 221
兵庫	コシヒカリ	16,008	15,734	+ 274
兵庫	ヒノヒカリ	14,793	14,460	+ 333
兵庫	キヌヒカリ	14,843	14,419	+ 424
奈良	ヒノヒカリ	15,537	14,721	+ 816
鳥取	コシヒカリ	15,463	15,051	+ 412
鳥取	きぬむすめ	14,681	14,283	+ 398
鳥取	ひとめぼれ	14,495	14,129	+ 366
島根	コシヒカリ	15,719	15,432	+ 287
島根	きぬむすめ	14,807	14,421	+ 386
島根	つや姫	15,596	15,160	+ 436

（単位：円／玄米60kg（税込））

産地品種銘柄		30年産 出回り～ 元年6月 ①	29年産 出回り～ 30年10月 ②	価格差 ①－②
岡山	アケボノ	14,938	15,030	▲ 92
岡山	あきたこまち	15,059	15,357	▲ 298
岡山	ヒノヒカリ	15,276	15,380	▲ 104
広島	コシヒカリ	15,431	14,923	+ 508
広島	あきろまん	14,452	13,651	+ 801
山口	コシヒカリ	15,263	14,983	+ 280
山口	ひとめぼれ	14,404	14,136	+ 268
山口	ヒノヒカリ	14,405	14,159	+ 246
徳島	コシヒカリ	15,867	14,940	+ 927
徳島	キヌヒカリ	15,102	14,221	+ 881
香川	ヒノヒカリ	14,803	14,295	+ 508
香川	コシヒカリ	15,262	14,806	+ 456
愛媛	コシヒカリ	15,534	14,303	+ 1,231
愛媛	ヒノヒカリ	15,179	13,692	+ 1,487
愛媛	あきたこまち	14,975	13,693	+ 1,282
高知	コシヒカリ	15,171	15,244	▲ 73
高知	ヒノヒカリ	14,358	14,358	± 0
福岡	夢つし	16,273	16,200	+ 73
福岡	ヒノヒカリ	15,453	15,123	+ 330
福岡	元気つくし	16,090	15,984	+ 106
佐賀	夢しずく	14,423	14,216	+ 207
佐賀	さがびより	15,012	14,958	+ 54
佐賀	ヒノヒカリ	14,227	13,921	+ 306
長崎	ヒノヒカリ	15,475	15,292	+ 183
長崎	にこまる	15,796	15,600	+ 196
長崎	コシヒカリ	16,383	16,076	+ 307
熊本	ヒノヒカリ	15,111	14,876	+ 235
熊本	森のくまさん	14,897	14,514	+ 383
熊本	コシヒカリ	15,651	15,521	+ 130
大分	ヒノヒカリ	15,655	15,445	+ 210
大分	ひとめぼれ	15,764	15,262	+ 502
宮崎	コシヒカリ	15,458	15,157	+ 301
宮崎	ヒノヒカリ	16,010	15,592	+ 418
鹿児島	ヒノヒカリ	16,050	15,518	+ 532
鹿児島	コシヒカリ	16,307	15,542	+ 765
鹿児島	あきほなみ	16,929	16,624	+ 305
全銘柄平均価格		15,689	15,595	+ 94

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（30年産は令和元年6月まで）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。

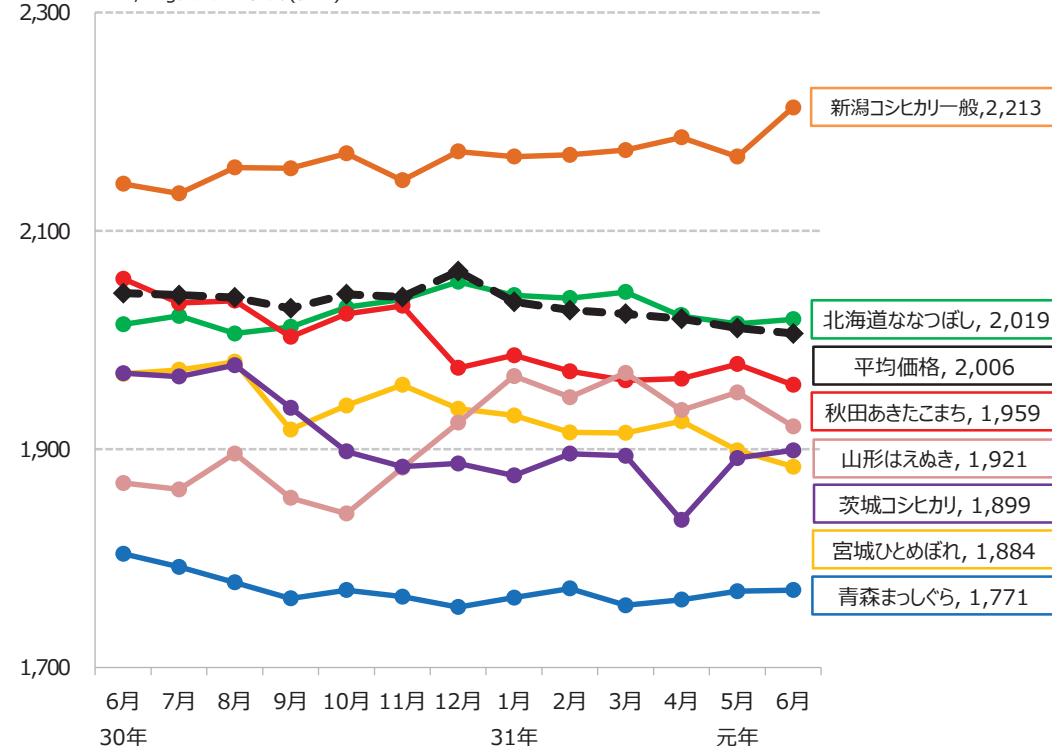
2：運賃、包装代、消費税相当額（8%）を含む1等米の価格である。

小売価格の推移（POSデータ）

円/5kg袋販売時換算(税込)

	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	全POS取引 平均価格
平成30年6月	2,014	1,804	1,969	2,056	1,869	1,970	2,143	2,043
7月	2,022	1,792	1,973	2,034	1,863	1,967	2,134	2,041
8月	2,006	1,778	1,980	2,036	1,896	1,977	2,158	2,039
9月	2,012	1,763	1,918	2,003	1,855	1,938	2,157	2,029
10月	2,030	1,771	1,940	2,024	1,841	1,898	2,171	2,042
11月	2,037	1,765	1,959	2,031	1,883	1,884	2,146	2,039
12月	2,053	1,755	1,937	1,974	1,924	1,887	2,173	2,063
平成31年1月	2,041	1,764	1,931	1,986	1,967	1,876	2,168	2,035
2月	2,038	1,772	1,915	1,971	1,948	1,896	2,170	2,027
3月	2,044	1,757	1,915	1,963	1,970	1,894	2,174	2,024
4月	2,022	1,762	1,926	1,965	1,936	1,835	2,186	2,019
令和元年5月	2,015	1,770	1,899	1,978	1,952	1,892	2,168	2,011
6月	2,019	1,771	1,884	1,959	1,921	1,899	2,213	2,006
対前月比	+ 0.2%	+ 0.1%	▲ 0.8%	▲ 1.0%	▲ 1.6%	+ 0.4%	+ 2.1%	▲ 0.2%
対前年同月比	+ 0.2%	▲ 1.8%	▲ 4.3%	▲ 4.7%	+ 2.8%	▲ 3.6%	+ 3.3%	▲ 1.8%

円/5kg袋販売時換算(税込)



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

(注1) (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,057店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。(注2) POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。(注3) POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。(注4) 全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。(注5) 価格に含む消費税は8%である。

販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数(平成18～30年)

- ・ 都道府県全体では、一貫して農家数は減少（平成18年 1,369千戸→30年 790千戸）。
- ・ 北海道では10ha以上作付している農家が1/3を占め、全体に占める割合も倍増（平成18年 16.7%→30年 32.8%）。都府県では1ha未満農家数が2/3を占めるものの、5ha以上作付している農家の数・割合が増加しており（平成18年 21千戸（1.6%）→30年 32千戸（4.1%））、大規模農家の割合は増加傾向にある。

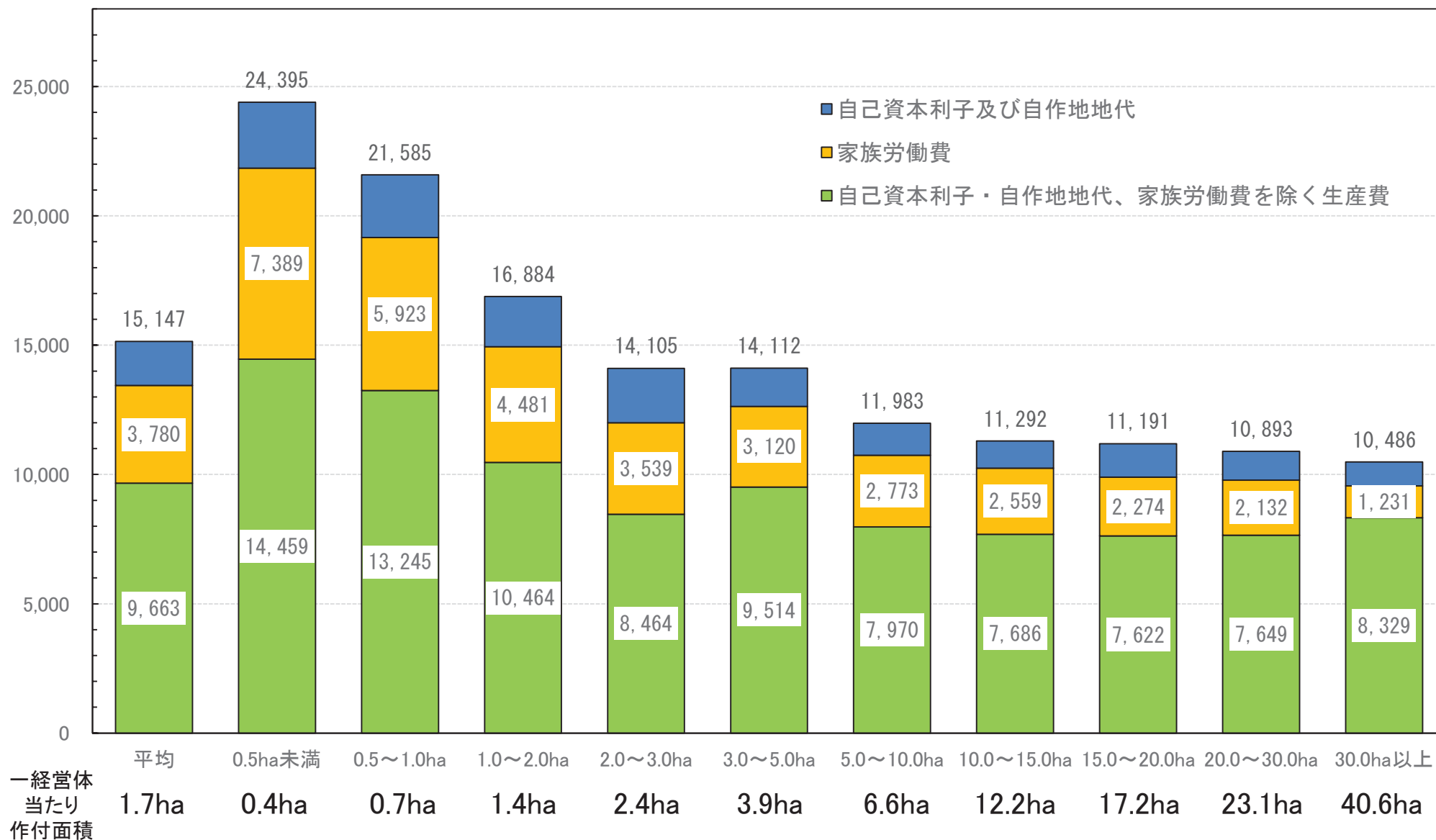
	北海道					都府県					
	計	3ha未満	3ha～5ha	5ha～10ha	10ha以上	計	1ha未満	1ha～2ha	2ha～3ha	3ha～5ha	5ha以上
平成18年	18 (100.0)	4 (22.2)	4 (22.2)	6 (33.3)	3 (16.7)	1,351 (100.0)	987 (73.1)	250 (18.5)	59 (4.4)	34 (2.5)	21 (1.6)
平成19年	18 (100.0)	4 (22.2)	4 (22.2)	6 (33.3)	4 (22.2)	1,308 (100.0)	943 (72.1)	246 (18.8)	60 (4.6)	37 (2.8)	22 (1.7)
平成20年	17 (100.0)	4 (23.5)	4 (23.5)	5 (29.4)	4 (23.5)	1,259 (100.0)	904 (71.8)	231 (18.3)	63 (5.0)	37 (2.9)	24 (1.9)
平成21年	17 (100.0)	3 (17.6)	4 (23.5)	5 (29.4)	4 (23.5)	1,225 (100.0)	880 (71.8)	226 (18.4)	59 (4.8)	35 (2.9)	24 (2.0)
平成22年	16 (100.0)	4 (25.0)	3 (18.8)	5 (31.3)	4 (25.0)	1,144 (100.0)	843 (73.7)	190 (16.6)	54 (4.7)	35 (3.1)	22 (1.9)
平成23年	17 (100.0)	5 (29.4)	3 (17.6)	5 (29.4)	4 (23.5)	1,141 (100.0)	827 (72.5)	194 (17.0)	53 (4.6)	37 (3.2)	29 (2.5)
平成24年	15 (100.0)	4 (26.7)	3 (20.0)	5 (33.3)	4 (26.7)	1,042 (100.0)	763 (73.2)	174 (16.7)	48 (4.6)	33 (3.2)	24 (2.3)
平成25年	14 (100.0)	3 (20.0)	3 (20.0)	4 (26.7)	3 (20.0)	1,013 (100.0)	732 (72.3)	171 (16.9)	50 (4.9)	34 (3.4)	26 (2.6)
平成26年	14 (100.0)	3 (20.0)	3 (20.0)	4 (26.7)	4 (26.7)	982 (100.0)	702 (69.3)	170 (16.8)	50 (4.9)	33 (3.3)	27 (2.7)
平成27年	13 (100.0)	3 (23.1)	2 (15.6)	4 (31.4)	4 (29.9)	939 (100.0)	660 (70.3)	159 (16.9)	50 (5.3)	36 (3.8)	35 (3.7)
平成28年	12 (100.0)	3 (25.0)	2 (17.5)	4 (29.2)	4 (35.0)	859 (100.0)	593 (69.0)	153 (17.8)	50 (5.8)	33 (3.8)	30 (3.5)
平成29年	12 (100.0)	3 (23.3)	2 (17.5)	4 (33.3)	4 (33.3)	805 (100.0)	551 (68.4)	143 (17.8)	47 (5.8)	33 (4.1)	31 (3.9)
平成30年	13 (100.0)	3 (23.4)	2 (16.4)	4 (27.3)	4 (32.8)	777 (100.0)	527 (67.8)	140 (18.0)	45 (5.8)	33 (4.2)	32 (4.1)

注： 平成22、27年は、「農林業センサス」、その他の年は、「農業構造動態調査」の調査結果に基づくもの。
（農林業センサスは全数調査であるが、農業構造動態調査は標本調査である。）
ラウンドの関係で計と内訳の合計が一致しない場合がある。

上段(農家数)：千戸
下段(割合)：%

米の作付規模別60kg当たり生産費（平成29年産）

（円/60kg）



出典：平成29年産農産物生産費

水田の利用状況(平成30年度)

※水田活用の直接支払交付金の支援対象面積

作物別作付面積(二毛作※含む延べ面積)

対象作物	作付面積(万ha)
水稻作付面積	159.2
主食用米	138.6
加工用米	5.1
米粉用米	0.5
飼料用米	8.0
WCS用稲	4.3
備蓄米	2.2
輸出用米等	0.4
麦	17.1
大豆	11.8
飼料作物(飼料用米・WCS用稲を除く)	10.3
そば・なたね	3.9
その他(野菜、不作付地等)	39.4
田本地面積	227.3

注1: 田本地面積、水稻作付面積、麦、大豆、そばは「耕地及び作付面積統計」

注2: 主食用米は「作物統計」

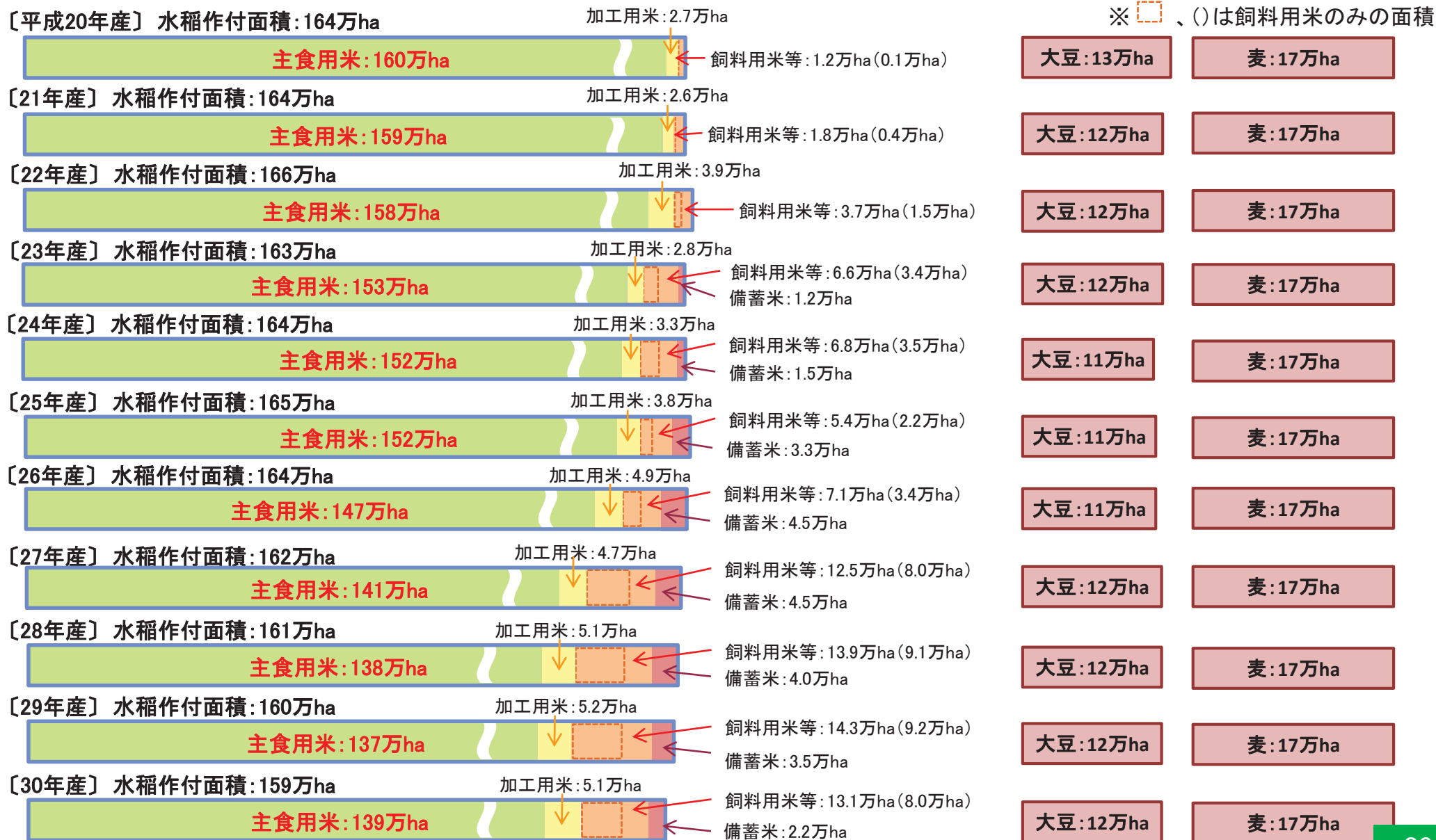
注3: 加工用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲、備蓄米、輸出用米等は「新規需要米の用途別取組状況」

注4: 飼料作物、なたねは「水田活用の直接支払交付金支払い実績」

注5: ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある

水田の利用状況の推移

○ 平成20年以降、主食用米の需要減少分は、飼料用米等の拡大で対応されている。こうした取組を進めることで、水田がフルに活用され、生産者等の主体的経営判断による需要に応じた米生産の推進が期待される。



※ 水稻、麦、大豆:「耕地及び作付面積統計」、主食用米:「作物統計」、加工用米、飼料用米等:「新規需要米の取組計画認定状況」、備蓄米:穀物課調べ

全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～29年産)

年産	生産数量目標 ① 万トン	主食用米 生産量 ② 万トン	超過数量 ②－① 万トン	①を面積換算 したもの ③ 万ha	主食用米 作付面積 ④ 万ha	超過作付面積 ④－③ 万ha	作況 指数 ⑤
H16	857	860	2	163.3	165.8	2.5	98
17	851	893	42	161.5	165.2	3.7	101
18	833	840	7	157.5	164.3	6.8	96
19	828	854	26	156.6	163.7	7.1	99
20	815	866	51	154.2	159.6	5.4	102
21	815	831	16	154.3	159.2	4.9	98
22	813	824	11	153.9	158.0	4.1	98
23	795	813	19	150.4	152.6	2.2	101
24	793	821	28	150.0	152.4	2.4	102
25	791	818	27	149.5	152.2	2.7	102
26	765	788	23	144.6	147.4	2.8	101
27	751	744	▲7	141.9	140.6	▲1.3	100
28	743	750	7	140.3	138.1	▲2.2	103
29	735	731	▲4	138.7	137.0	▲1.7	100

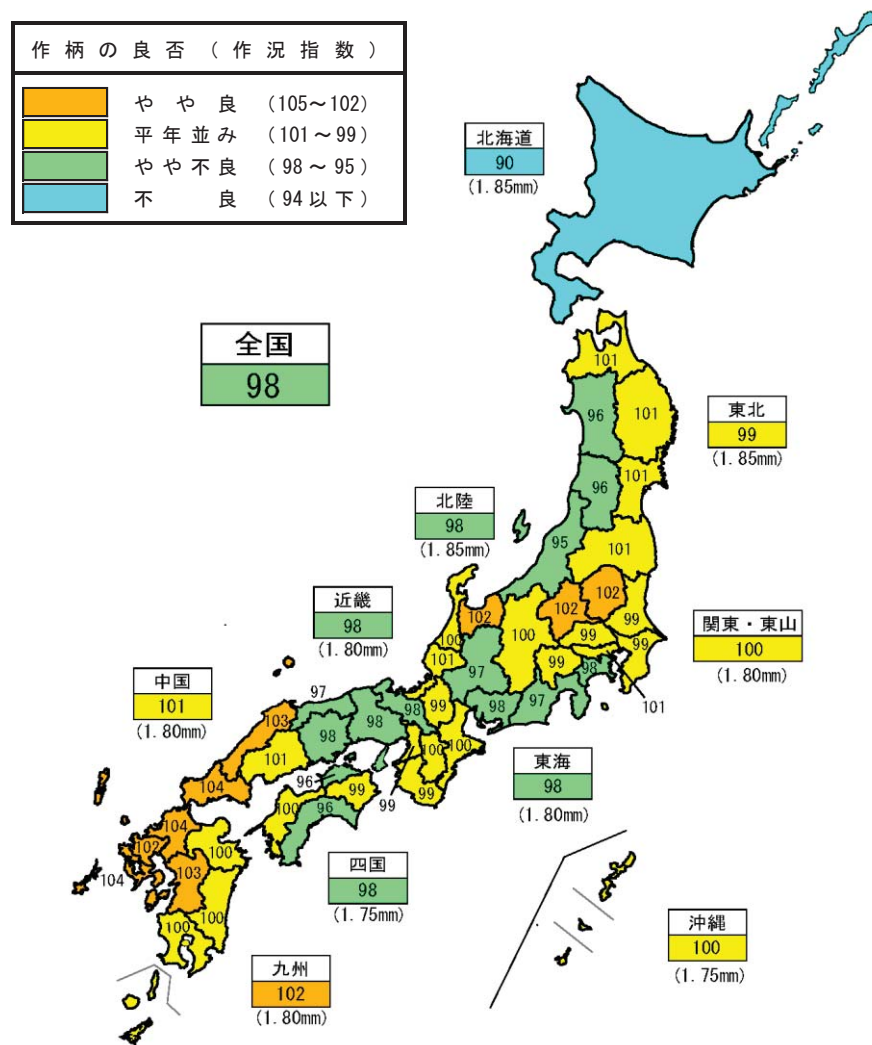
注1：②の主食用米生産量（19年産以前）は、統計部公表の水稲収穫量から加工用米等の出荷実績数量を控除した数値。

2：④の主食用米作付面積（19年産以前）は、統計部公表の水稲作付面積から加工用米等の作付面積を控除した数値。

3：②、④及び⑤の20年産から29年産の数値は、それぞれ統計部公表の12月の収穫量（主食用）、主食用作付面積及び作況指数。

4：ラウンドの関係で内訳が一致しない場合がある。

全国農業地域・都道府県別作況指数(平成30年12月10日公表 確定値)【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



【ふるい目幅別重量分布状況の推移】

年 産	計	単位: %					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
平成25年産	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
30(概算値)	100.0	0.9	1.6	2.3	3.3	17.6	74.3
平均 値	100.0	0.8	1.4	1.9	2.7	14.9	78.3
対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.4	0.6	2.7	△ 4.0

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下同じ。）。

注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

平成30年産水稻の作付面積及び収穫量(平成30年12月10日公表 確定値)

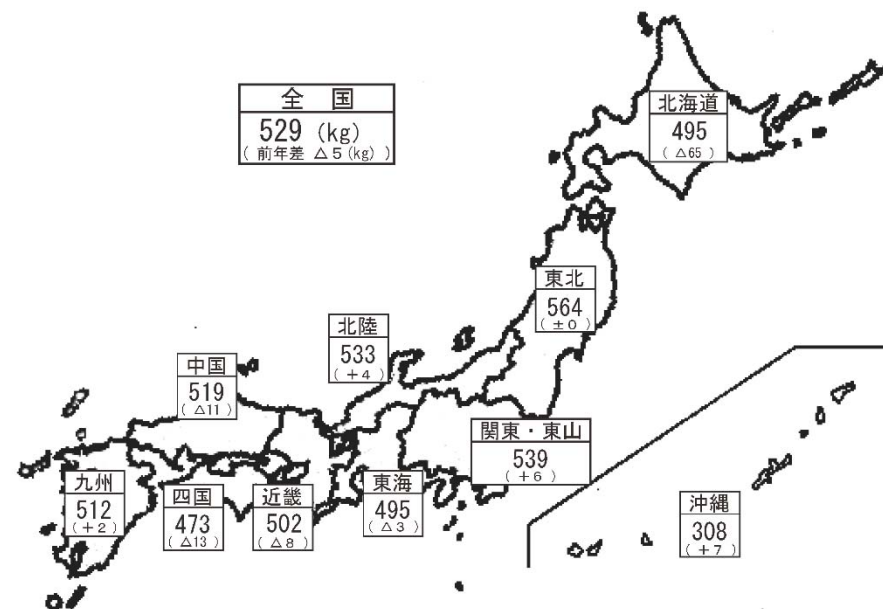
- 平成30年産の全国の主食用米の作付面積は、都道府県ごとの増減があるものの、前年産（137.0万ha）と概ね同水準の138.6万ha。
- 全国の10a当たり収量は、529kg（前年産534kg）で、作況指数は「98」（前年産「100」）。
- 主食用米の収穫量は、732.7万トン（前年産730.6万トン）で、30年産需給見通し（生産量735万トン）と概ね同水準。

平成30年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 農業地域	作付面積(子実用)			10a当たり収量		収穫量(子実用)			参 考		
	実数 ①	前年産 との比較		実数 ②	前年産 との比較 対差	実 数 ③=①×②	前年産 との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況 指数
		対差	対比				対差	対比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,470,000	5,000	100	529	△5	7,780,000	△42,000	99	1,386,000	7,327,000	98
北 海 道	104,000	100	100	495	△65	514,800	△67,000	88	98,900	489,600	90
東 北	379,100	4,300	101	564	0	2,137,000	22,000	101	345,500	1,947,000	99
北 陸	205,600	1,500	101	533	4	1,096,000	17,000	102	184,800	985,300	98
関東・東山	270,300	1,800	101	539	6	1,457,000	26,000	102	259,300	1,398,000	100
東 海	93,400	1,000	101	495	△3	462,400	2,300	100	91,000	450,600	98
近 畿	103,100	△100	100	502	△8	517,500	△9,100	98	99,500	498,700	98
中 国	103,700	△600	99	519	△11	537,800	△14,600	97	101,100	524,200	101
四 国	49,300	△600	99	473	△13	233,400	△9,000	96	49,000	232,000	98
九 州	160,400	△2,700	98	512	2	821,300	△10,600	99	156,100	800,000	102
沖 縄	716	△11	98	308	7	2,210	20	101	716	2,210	100

- 注：1 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 2 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域別10a当たり収量



平成30年産の水田における作付状況

- 戦略作物等の作付面積については、飼料用米及び備蓄米の作付面積が減少する一方、新市場開拓用米が増加。その他の戦略作物については、総じて前年並みとなった。

主食用米及び戦略作物等の作付状況

単位：万ha

単位：万t

	主食用米		戦略作物等作付面積								
	作付面積	(参考)	加工用米	米粉用米	飼料用米	WCS	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	備蓄米	麦	大豆	その他
		生産数量目標 (面積換算値)									
H27年産	140.6	141.9	4.7	0.4	8.0	3.8	0.2	4.5	9.9	8.7	10.0
28年産	138.1	140.3	5.1	0.3	9.1	4.1	0.1	4.0	9.9	8.9	10.2
29年産	137.0	138.7	5.2	0.5	9.2	4.3	0.1	3.5	9.8	9.0	10.2
30年産	138.6	—	5.1	0.5	8.0	4.3	0.4	2.2	9.7	8.8	10.2

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：その他は、飼料作物、そば、なたね等の面積。

注4：麦、大豆、その他（基幹作のみ）は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積。

平成30年産の水田における都道府県別の作付状況 ①

○ 平成30年産に向けて、産地が主体的に需要に応じた生産・販売を判断できるよう、各都道府県別及び地域農業再生協議会別の作付状況を公表。

単位：ha

地域農業 再生協議会	29年産	30年産													
	主食用米 ①	主食用米		加工用米	新規需要米					備蓄米	麦	大豆	飼料作物	そば	なたね
		②	増減 ②－①		米粉用米	飼料用米	WCS	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	その他						
北海道	98,600	98,900	300	4,547	57	1,841	540	537	－	－	32,501	19,134	25,409	9,178	533
青森	38,000	39,600	1,600	1,726	5	5,434	662	112	－	2,770	667	4,530	4,724	1,207	10
岩手	47,000	48,800	1,800	1,199	58	3,986	1,620	171	2	47	3,379	3,644	7,810	598	18
宮城	63,500	64,500	1,000	1,107	68	5,553	2,006	213	1	1,404	1,669	9,014	5,453	479	7
秋田	69,500	75,000	5,500	9,786	233	1,993	1,229	252	3	2,393	225	7,835	2,185	2,672	11
山形	56,400	56,400	－	4,141	136	3,704	908	226	3	3,508	67	4,808	2,571	4,279	8
福島	59,900	61,200	1,300	439	2	5,275	1,052	38	2	3,170	205	838	1,590	1,729	98
茨城	66,400	66,800	400	1,260	39	8,003	550	224	－	122	4,392	469	523	367	2
栃木	53,600	54,700	1,100	2,023	604	9,155	1,626	54	1	1,046	7,011	413	2,824	907	1
群馬	13,900	13,700	▲ 200	1,480	324	1,243	519	3	－	2	1,947	120	205	20	0
埼玉	30,700	30,800	100	296	618	1,669	120	12	－	38	1,769	347	136	52	3
千葉	53,300	53,900	600	1,583	44	4,379	984	19	－	120	537	182	278	6	2
東京	141	133	▲ 8	－	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
神奈川	3,090	3,080	▲ 10	－	－	13	－	－	－	－	5	6	7	0	－
新潟	100,300	104,700	4,400	7,851	1,932	2,908	386	866	0	2,677	166	4,214	338	869	4
富山	33,300	33,300	－	1,549	78	1,229	405	219	－	2,086	2,982	3,938	277	225	15
石川	23,200	23,200	－	795	71	645	87	163	－	875	889	910	33	147	1
福井	23,300	23,600	300	741	91	1,217	102	117	－	469	4,653	121	28	539	－
山梨	4,880	4,820	▲ 60	78	3	16	12	0	－	－	58	96	27	111	0
長野	31,300	31,300	－	745	23	267	240	61	－	44	2,320	552	538	2,152	1
岐阜	21,500	21,500	－	934	27	2,347	208	49	－	48	3,210	523	536	263	－
静岡	15,600	15,700	100	104	10	1,139	217	2	－	－	277	41	55	40	－

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

平成30年産の水田における都道府県別の作付状況 ②

単位：ha

地域農業 再生協議会	29年産	30年産													
	主食用米 ①	主食用米		加工用米	新規需要米					備蓄米	麦	大豆	飼料作物	そば	なたね
		②	増減 ②－①		米粉用米	飼料用米	WCS	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	その他						
愛知	26,600	26,700	100	668	63	1,449	193	21	1	79	5,138	119	128	11	5
三重	26,800	27,100	300	249	86	1,691	239	43	－	－	6,085	337	42	9	16
滋賀	30,000	30,100	100	1,188	31	941	255	80	－	200	7,539	441	136	99	23
京都	14,100	13,900	▲ 200	512	6	122	107	12	－	－	244	230	59	113	－
大阪	5,150	5,000	▲ 150	0	4	6	－	－	－	－	3	5	1	1	－
兵庫	35,100	35,500	400	639	26	281	787	6	8	－	1,946	1,592	782	141	12
奈良	8,580	8,530	▲ 50	15	30	43	44	－	－	－	63	23	7	2	0
和歌山	6,560	6,430	▲ 130	－	－	3	2	－	－	－	1	15	3	2	－
鳥取	12,400	12,700	300	18	0	794	359	－	0	67	28	668	745	295	1
島根	17,200	17,200	－	242	2	983	533	0	1	14	300	569	442	285	5
岡山	29,100	29,400	300	434	65	1,254	367	5	0	146	1,119	1,164	882	123	1
広島	23,100	22,900	▲ 200	350	112	441	562	3	1	－	233	293	985	260	－
山口	19,300	18,900	▲ 400	924	9	874	305	1	2	－	630	765	888	36	－
徳島	11,300	11,200	▲ 100	26	15	543	217	20	－	166	52	13	106	3	－
香川	12,800	12,500	▲ 300	42	7	131	111	－	0	－	862	50	105	11	－
愛媛	13,900	13,900	－	36	4	319	135	6	－	－	504	320	214	1	－
高知	11,500	11,400	▲ 100	58	18	944	228	－	－	2	6	64	117	2	－
福岡	35,100	34,900	▲ 200	243	183	2,033	1,500	9	－	33	1,402	7,753	466	40	1
佐賀	24,400	24,000	▲ 400	267	9	584	1,399	4	0	41	142	7,894	344	10	2
長崎	11,600	11,400	▲ 200	10	6	131	1,204	－	－	－	86	347	1,866	52	2
熊本	32,200	32,300	100	754	161	1,269	7,748	20	31	18	781	1,981	2,299	185	9
大分	20,900	20,600	▲ 300	101	17	1,428	2,451	－	0	17	412	1,394	1,038	80	4
宮崎	15,000	14,700	▲ 300	1,360	17	433	6,682	10	35	－	11	213	3,311	47	0
鹿児島	19,600	18,300	▲ 1,300	967	1	822	3,645	－	5	－	34	254	2,604	44	2
沖縄	727	716	▲ 11	－	－	－	－	－	－	－	0	－	16	－	－
全国計	137.0万	138.6万	1.6万	5.1万	0.5万	8.0万	4.3万	0.4万	0.0万	2.2万	9.7万	8.8万	7.3万	2.8万	0.1万

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

令和元年産米等の作付意向について（令和元年6月末現在）①

- 平成31年4月末現在の作付意向と比較すると、作付面積について主食用米では対前年で減少傾向にある県の数は同数となっており、6月末現在において前年実績（138.6万ha）から微減と推計。一方、戦略作物（飼料用米（減少28県→36県）、加工用米（減少18県→25県））については、対前年で減少傾向にある県の数は増加し、また備蓄米では対前年で増加傾向にある県の数はわずかな増加^{（※）}（増加30県→31県）となっていることから、もう一步の推進が必要な状況。
- なお、例年どおり9月末には令和元年産の都道府県別及び地域農業再生協議会別の主食用米及び戦略作物等の作付面積を公表する予定。

（※）第10回までの落札合計数量18万5千トン（対前年6万2千トン増）

【令和元年産米等の作付意向（平成30年産作付実績との比較、令和元年6月末現在）】

	主食用米		備蓄米		戦略作物													
					飼料用米		加工用米		WCS (稲発酵粗飼料稲)		米粉用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		麦		大豆	
	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末	4月末	6月末
前年より増加傾向	0県	0県	30県	31県	6県	7県	12県	14県	11県	18県	18県	25県	23県	22県	16県	18県	11県	12県
前年並み傾向	32県	32県	1県	1県	11県	2県	13県	5県	15県	13県	8県	1県	9県	2県	18県	16県	14県	12県
前年より減少傾向	15県	15県	1県	0県	28県	36県	18県	25県	17県	12県	18県	19県	4県	12県	12県	12県	20県	21県

注1：令和元年産の意向（増加傾向、前年並み傾向、減少傾向）は、30年産作付実績との比較。

2：比較している主食用米の30年産作付実績は、平成30年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

3：飼料用米、加工用米、WCS、米粉用米、新市場開拓用米の30年産作付実績は、平成30年産新規需要米の取組計画認定面積。

4：麦・大豆の30年産作付実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積で、二毛作を含む。

5：備蓄米の30年産作付実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和元年産米等の作付意向について（令和元年6月末現在）②

都道府県	主食用米				備蓄米				戦略作物																			
	30年産実績 (ha)	元年産の意向 (対前年実績)		30年産実績 (ha)	元年産の意向 (対前年実績)		飼料用米			加工用米			WCS (稲発酵粗飼料稲)			米粉用米			新市場開拓用米 (輸出用米等)			麦			大豆			
		4月末 時点	6月末 時点		30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末	30年産実績 (ha)	4月末 4月末	6月末 6月末
全国計	138.6万			21,606			79,535			51,490			42,545			5,295			3,578			169,513			115,148			
北海道	98,900	🟢	🟢	0	🔴	🔴	1,841	🔴	🔴	4,547	🔴	🔴	540	🔴	🔴	57	🟢	🟢	537	🟢	🔴	32,501	🔴	🔴	19,134	🟢	🟢	
青森	39,600	🟢	🟢	2,770	🔴	🔴	5,434	🟢	🟢	1,726	🟢	🟢	662	🟢	➡	5	🟢	🔴	112	🔴	🔴	667	🟢	➡	4,556	🟢	🟢	
岩手	48,800	🟢	🟢	47	🔴	🔴	3,986	🟢	🟢	1,199	🔴	🔴	1,620	➡	🔴	58	🟢	🟢	171	🔴	🔴	3,379	➡	➡	3,748	🟢	🟢	
宮城	64,500	➡	➡	1,404	🔴	🔴	5,553	🟢	🟢	1,107	🟢	🟢	2,006	➡	🔴	68	➡	🟢	213	🔴	🔴	2,162	🔴	🔴	10,198	🔴	🔴	
秋田	75,000	➡	➡	2,393	🔴	🔴	1,993	🟢	🟢	9,786	🟢	🟢	1,229	🟢	🟢	233	🔴	🔴	252	➡	🟢	309	🟢	🟢	7,835	➡	➡	
山形	56,400	➡	➡	3,508	🔴	🔴	3,704	🟢	🟢	4,141	🔴	➡	908	🔴	🔴	136	🟢	🟢	226	🔴	➡	79	🟢	🟢	4,839	🟢	🟢	
福島	61,200	🟢	🟢	3,170	🔴	🔴	5,275	🟢	🟢	439	🟢	🟢	1,052	🟢	🟢	2	🟢	🔴	38	🔴	🔴	207	🔴	🔴	885	🟢	➡	
茨城	66,800	➡	➡	122	🔴	🔴	8,003	🟢	🟢	1,260	➡	➡	550	🟢	🟢	39	🟢	🟢	224	🔴	🔴	4,718	🟢	➡	2,335	🟢	🟢	
栃木	54,700	➡	➡	1,046	🔴	🔴	9,155	🟢	🟢	2,023	➡	🔴	1,626	🟢	🟢	604	🔴	🔴	54	➡	🟢	10,900	🟢	🟢	2,176	🟢	🟢	
群馬	13,700	➡	➡	2	🔴	🔴	1,243	🟢	🟢	1,480	➡	➡	519	🔴	🔴	324	🟢	🔴	3	🔴	🔴	6,679	🔴	🔴	122	🔴	🔴	
埼玉	30,800	➡	➡	38	🔴	🔴	1,669	🟢	🟢	296	➡	🟢	120	🟢	🟢	618	🔴	🔴	12	🔴	🔴	4,752	➡	➡	433	🔴	🔴	
千葉	53,900	🟢	➡	120	🔴	🔴	4,379	🟢	🟢	1,583	➡	🟢	984	🟢	🟢	44	🟢	🟢	19	🔴	🟢	557	🔴	🟢	581	🔴	🔴	
東京	133	➡	➡	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	➡	➡	0	-	-	0	-	-	0	-	-	
神奈川	3,080	➡	➡	0	-	-	13	➡	🟢	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	7	➡	🟢	9	➡	➡	
新潟	104,700	➡	➡	2,677	🔴	🔴	2,908	🟢	🟢	7,851	🟢	🟢	386	🟢	➡	1,932	🟢	🟢	866	🟢	🟢	185	🔴	🔴	4,310	🟢	🟢	
富山	33,300	🟢	➡	2,086	🔴	🔴	1,229	🔴	🔴	1,549	🟢	🟢	405	➡	🔴	78	🔴	🔴	219	🔴	🔴	3,309	🟢	🟢	4,684	🟢	🟢	
石川	23,200	🟢	🟢	875	🔴	🔴	645	🟢	🟢	795	🟢	🟢	87	🟢	🔴	71	🔴	🔴	163	🟢	🟢	1,091	➡	➡	1,208	🟢	🟢	
福井	23,600	🟢	➡	469	🔴	🔴	1,217	🟢	🟢	741	➡	🟢	102	🟢	🟢	91	🔴	🟢	117	🔴	🔴	4,781	🟢	🟢	1,760	➡	➡	
山梨	4,820	➡	➡	0	-	-	16	➡	🔴	78	🟢	🟢	12	🔴	🔴	3	🔴	🔴	0	➡	🟢	61	🟢	🟢	117	🟢	🟢	
長野	31,300	➡	➡	44	🔴	🔴	267	➡	🟢	745	🟢	➡	240	➡	🟢	23	🟢	🟢	61	➡	🔴	2,336	🔴	🔴	1,420	🔴	🔴	
岐阜	21,500	➡	➡	48	🔴	🔴	2,347	🟢	🟢	934	🔴	🟢	208	🟢	🟢	27	➡	🟢	49	🔴	🔴	3,405	➡	➡	2,811	➡	➡	
静岡	15,700	➡	➡	0	🔴	🔴	1,139	🟢	🟢	104	🔴	🔴	217	🔴	🔴	10	➡	🔴	2	➡	🟢	732	➡	➡	156	➡	➡	
愛知	26,700	➡	➡	79	🔴	🔴	1,449	🟢	🟢	668	➡	🟢	193	🟢	🟢	63	➡	🔴	21	➡	🔴	5,408	🔴	🔴	4,116	➡	➡	
三重	27,100	➡	➡	0	🔴	🔴	1,691	➡	🟢	249	➡	🟢	239	➡	🔴	86	➡	🔴	43	🔴	🟢	6,391	🔴	🔴	4,284	➡	➡	

（注1）主食用米、戦略作物及び備蓄米の「令和元年産の意向（対前年実績）」は、平成30年産作付実績と比較し、「▲：増加傾向」、「→：前年並み傾向」、「▲：減少傾向」で分類。

（注2）主食用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

（注3）飼料用米、加工用米、WCS、米粉用米、新市場開拓用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年産新規需要米の取組計画認定面積。麦・大豆の「30年産実績（ha）」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積で、二毛作を含む。

（注4）備蓄米の「30年産実績（ha）」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和元年産米等の作付意向について（令和元年6月末現在）③

都道府県	主食用米			備蓄米			戦略作物																					
	30年産実績 (ha)	元年産の意向 (対前年実績)		30年産実績 (ha)	元年産の意向 (対前年実績)		飼料用米			加工用米			WCS (稲発酵粗飼料稲)			米粉用米			新市場開拓用米 (輸出用米等)			麦			大豆			
		4月末時点	6月末時点		30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末	30年産実績 (ha)	4月末	6月末
滋賀	30,100	→	→	200	↗	↗	941	→	→	1,188	↘	↘	255	↘	↘	31	↘	↘	80	↗	↗	7,672	↘	↘	6,439	↘	↘	
京都	13,900	→	→	0	-	-	122	↗	↗	512	↗	↗	107	↗	↗	6	↘	↘	12	↗	↗	251	→	→	247	↘	↘	
大阪	5,000	↘	↘	0	-	-	6	→	↗	0	→	↘	0	-	-	4	→	↗	0	-	-	3	→	→	5	→	→	
兵庫	35,500	→	→	0	-	-	281	↗	↗	639	↘	↘	787	→	→	26	↗	↗	6	↘	↘	2,291	↗	↗	2,019	↗	↗	
奈良	8,530	→	→	0	-	-	43	↘	↘	15	→	→	44	→	→	30	↘	↘	0	-	-	107	→	→	51	→	→	
和歌山	6,430	→	↘	0	-	-	3	↘	↘	0	-	-	2	↘	↗	0	-	↗	0	-	-	1	↘	↘	15	↘	↘	
鳥取	12,700	→	→	67	↘	↗	794	↘	↘	18	↘	↘	359	↗	↗	0	↗	↗	0	-	-	130	↘	↗	668	↘	↘	
島根	17,200	↘	→	14	↗	↗	983	↘	↘	242	↗	↗	533	↗	↗	2	↗	↗	0	↗	↗	583	→	→	577	↗	↗	
岡山	29,400	→	→	146	↗	↗	1,254	↘	↘	434	→	↗	367	↘	↘	65	↗	↗	5	↗	↗	2,805	↗	↗	1,216	↗	↗	
広島	22,900	→	↘	0	↗	↗	441	→	↘	350	→	↘	562	→	→	112	↘	↘	3	→	→	254	↗	↗	343	→	↗	
山口	18,900	↘	↘	0	-	-	874	↗	↗	924	↗	↘	305	↗	↗	9	↗	↗	1	→	↗	1,842	↗	↗	829	↘	↘	
徳島	11,200	↘	↘	166	↗	↗	543	↘	↘	26	↘	↘	217	↘	→	15	→	↗	20	↗	↗	120	↗	↘	22	↘	↘	
香川	12,500	↘	↘	0	-	-	131	→	↘	42	↘	↘	111	↘	↗	7	↘	↘	0	-	-	2,605	↗	↗	52	↗	↗	
愛媛	13,900	→	→	0	-	-	319	↘	↘	36	→	↗	135	↗	↗	4	↗	↘	6	↗	↘	1,918	→	↗	322	↗	↗	
高知	11,400	→	→	2	→	→	944	→	↘	58	↘	↗	228	→	→	18	↘	↘	0	-	-	9	→	↘	69	↘	↘	
福岡	34,900	→	→	33	↗	↗	2,033	↗	↘	243	↘	↘	1,500	→	→	183	↗	↗	9	→	↘	21,295	↗	→	8,263	↗	→	
佐賀	24,000	↘	↘	41	↗	↗	584	→	→	267	↗	↗	1,399	↗	↗	9	↗	↗	4	↗	↗	20,541	→	↗	7,894	↘	↘	
長崎	11,400	→	→	0	-	-	131	↘	↘	10	↘	↘	1,204	→	→	6	↘	↘	0	-	-	1,189	→	→	354	→	→	
熊本	32,300	→	→	18	↗	↗	1,269	↘	↘	754	↘	↘	7,748	→	→	161	↗	↗	20	↗	↘	6,402	→	→	2,084	→	↗	
大分	20,600	→	↘	17	↗	↗	1,428	↘	↘	101	↗	↗	2,451	→	→	17	↘	↘	0	-	-	4,648	↘	↗	1,473	→	↘	
宮崎	14,700	↘	↘	0	-	-	433	→	↘	1,360	↗	↗	6,682	→	→	17	↗	↗	10	↗	↗	121	→	↗	218	→	↘	
鹿児島	18,300	→	→	0	-	-	822	↘	↘	967	↗	↗	3,645	→	→	1	↗	↗	0	↗	↗	109	→	→	271	↘	↘	
沖縄	716	→	↘	0	-	-	0	-	-	0	-	↗	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	→	→	0	-	-	

（注1）主食用米、戦略作物及び備蓄米の「令和元年産の意向（対前年実績）」は、平成30年産作付実績と比較し、「↗」：増加傾向、「→」：前年並み傾向、「↘」：減少傾向で分類。

（注2）主食用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

（注3）飼料用米、加工用米、WCS、米粉用米、新市場開拓用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年産新規需要米の取組計画認定面積。麦・大豆の「30年産実績（ha）」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積で、二毛作を含む。

（注4）備蓄米の「30年産実績（ha）」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和元年産米等の当面の推進について

- ・ 平成31年4月末現在の作付意向と比較すると、作付面積について主食用米では対前年で減少傾向にある県数は同数となっており、6月末現在において前年実績（138.6万ha）から微減と推計。一方、戦略作物（飼料用米（減少28県→36県）、加工用米（減少18県→25県））については、対前年で減少傾向にある県数は増加し、また備蓄米では対前年で増加傾向にある県数はわずかな増加^(※)（増加30県→31県）となっていることから、もう一步の推進が必要な状況。
- ・ 例年6月末が提出期限である飼料用米等の取組計画書の追加・変更を7月末まで受け付けるとともに、備蓄米の入札の延長を行うことで、産地での取組が進みつつあり、備蓄米の入札も落札合計数量が18万5千トン（対前年6万2千トン増）に達した。
- ・ 一方、飼料用米等の実需者からは、安定供給の確保等の要請が出されている。
- ・ こうした中、飼料用米等への仕向けや備蓄米の入札について、産地が引き続き検討する機会を確保するため、以下の措置を講ずる。

○ 飼料用米等の取組計画書の追加・変更の受け付け

6月末が提出期限である取組計画書について、追加・変更を8月末まで受け付け。

※ 併せて、飼料用米等に取り組みやすくするために運用を改善

8月に追加・変更した分について、取組農業者の特定（農業者別一覧の提出）のための期間を確保

○ 備蓄米入札の期間延長

備蓄米への取組の推進期間を確保するため、備蓄米の入札を8月末まで延長。

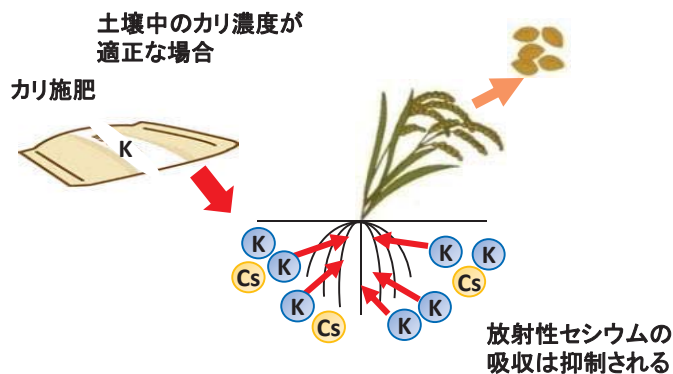
福島県における県産米の安全・安心確保への取組

- 作付制限、吸収抑制対策及び収穫後の検査を組み合わせることで安全確保を図る。
- 除染やカリ施肥による吸収抑制対策を実施。
- 福島県では、平成24年産米以降、県全体で全量全袋検査を実施。平成27年産米以降は基準値※超過はない。
- 平成30年3月、県が、通算で5年間基準値超過が出ていない時点を目途にモニタリング(抽出)検査に移行する等の方針を表明。

米の全袋検査



カリ施肥による稲の吸収抑制対策



	検査点数	基準値超過点数 ※	基準値超過割合(%) ※
H25年産	11,006,552	28	0.0003
26年産	11,014,972	2	0.00002
27年産	10,498,720	0	0
28年産	10,266,008	0	0
29年産	9,976,522	0	0
30年産	9,236,114	0	0

(出典) ふくしまの恵み安全対策協議会(令和元年6月30日現在)

※ 食品衛生法に基づき、100Bq/kgを基準値としている。